平成11年 第3回沼田町議会定例会会議録 (1日目)

平成11年 9月20日(月)

午前10時07分 開会

1. 出席議員

議長	4番	吉田好宏	議員	1番	久保寛	議員
	2番	野道夫	議員	3番	室田俊朗	議員
	5番	中村進	議員	6番	山田英次	議員
	7番	橋場守	議員	8番	大沼恒雄	議員
	9番	横山忠男	議員	10番	山木一男	議員
	11番	谷口清治	議員	12番	吉田俊一	議員
	13番	絵内勝己	議員	14番	杉本邦雄	議員

2. 欠席議員 なし

3. 地方自治法第121条の規定により、説明のため会議に出席した者の職氏名

町長	西田篤正	君	監査委員	岩寺一之	君
教育委員会 委員長	山本秀雄	君	農業委員会 委員長	小西義光	君

4. 町長の委任を受けて出席した説明員

助役	市橋忠晴	君	収入役	篠田繁彦	君
総務課長	平木昭良	君	地域振興課長	藤間武	君
財政課長	中村幸雄	君	農業振興課長	矢野潔	君
住民生活課長	佐藤幸一	君	健康福祉課長	松田剛	君
建設課長	野々宮宏	君	和風園園長	清水勝之	君
旭寿園園長	高儀博幸	君	デイサービスセンター長	半田昭雄	君

5. 教育委員会委員長の委任を受けて出席した説明員

教育長 久本博美 君 次長 金子幸保 君

6. 農業委員会会長の委任を受けて出席した説明員

事務局長 野原耕二君

7. 職務のため、会議に出席した者の職氏名

事務局長 石脇敏彦君 書記 富士原智君

8. 付議案件は次のとおり

(議件番号)	(件名)
	会議録署名議員の指名
	会期の決定
	議長諸般報告
	産業建設常任委員会所管事務調査報告
	町長の一般行政報告並びに教育長の教育行政報告
	一般質問
認定第1号	平成10年度沼田町一般会計等歳入歳出決算認定について
認定第2号	平成10年度沼田町水道事業会計歳入歳出決算認定について
認定第3号	平成10年度北空知伝染病隔離病舎組合歳入歳出決算認定について
承認第8号	専決処分の承認を求めることについて (平成11年度沼田町一般会計補正予算 専決第3号)
議案第47号	沼田町社会福祉センター条例を廃止する条例について
議案第48号	沼田町化石館設置条例について
議案第49号	沼田町高品質堆肥製造施設設置条例について
議案第50号	沼田町利雪技術開発センター設置条例について
議案第51号	沼田町在宅介護支援センター設置条例の一部を改正する条例について
議案第52号	平成11年度沼田町一般会計補正予算について
議案第53号	平成11年度沼田町国民健康保険特別会計補正予算について
議案第54号	平成11年度沼田町公共下水道特別会計補正予算について
同意第3号	教育委員会委員の任命について

- 議案第55号 公平委員の選任について
- 発議第1号 沼田高校間口対策特別委員会の設置について
- 請願第3号 新たな水田営農基本政策の確立等に関する請願について
- 請願第4号 新たな畑作基本政策の確立並びに平成11年産畑作物価格決定に関する請願について
- 請願第5号 農業経営再建対策の推進等に関する請願について
- 陳情第2号 義務教育国庫負担法一部適用除外に関する陳情について
- 陳情第3号 子ども一人ひとりを大切にす教育をめざし30人以下学級の早期実現を求める陳情について
- 決議案第2号 北海道教育大学岩見沢校の統合に反対する決議（案）について
- 決議案第3号 石炭対策及び産炭地域振興に関する決議（案）について
- 意見案第7号 道路特定財源等に関する意見書（案）について
- 意見案第8号 「介護保険制度」の改善等を求める意見書（案）について
- 意見案第9号 新たな水田営農基本政策の確立等に関する要望意見書（案）について
- 意見案第10号 新たな畑作基本政策の確立並びに平成11年産畑作物価格決定に関する要望意見書（案）について
- 意見案第11号 農業経営再建対策の推進等に関する要望意見書（案）について
- 意見案第12号 保育施設の拡充を求める意見書（案）について
- 意見案第13号 「義務教育国庫負担法」から学校事務職員・栄養職員の給与費の適用除外に関する要望意見書（案）について
- 意見案第14号 子ども一人ひとりを大切にす教育をめざし30人以下学級の早期実現を求める意見書（案）について
- 閉会中の継続調査の申し出について
（総務民教常任委員会・産業建設常任委員会）
- 閉会中の継続調査の申し出について
（沼田高校間口対策特別委員会）

(開 会 宣 言)

○議長（吉田好宏議長）これより本日をもって招集されました、平成11年第3回沼田町議会定例会を開会致します。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

(会議録署名議員の指名)

○議長（吉田好宏議長）日程第1、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、会議規則第120条の規定により、9番横山議員、10番山木議員を指名致します。

(会期の決定)

○議長（吉田好宏議長）日程第2、会期の決定を議題と致します。会期につきましては、議会運営委員会で審議されておりますので、議会運営委員長から報告を願います。

(野委員長 登壇)

○委員長（野委員長）平成11年第3回沼田町議会定例会の会期につきまして、議会運営委員会の審議結果を報告申し上げます。

去る9月14日、午後3時から全委員と正副議長出席のもと開催し、事務局より今定例会の提出議案等の概要について説明を受けるとともに、議長からの諮問事項を受けたところであります。これによりますと、本定例会に提出される案件として諸般報告1件、委員長報告1件、一般質問4人15件、平成11年度補正予算（専決処分）1件、平成11年度補正予算3件、一般議案10件、また議長に提出されました請願書、陳情書、意見書等19件の内10件につきましては採択すべきものとして取り扱うことで意見の一致をみたところであります。

以上、付議事件全般について審議しました結果、本定例会の会期としては本日20日月曜日から22日水曜日までの3日間とすることで意見の一致をみております。

以上、申し上げ、議会運営委員会の報告と致します。

○議長（吉田好宏議長）お諮り致します。本定例会の会期は委員長報告の通り、本日から22日までの3日間に致したいと思っております。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長（吉田好宏議長） ご異議なしと認めます。よって、会期は本日から22日までの3日間と決しました。

（議長の諸般報告）

○議長（吉田好宏議長） 日程第3、議長の諸般報告については、前定例会以降の議会の動静、例月出納検査結果報告書を提出しましたので、ご覧願います。

○議長（吉田好宏議長） 日程第4、産業建設常任委員会所管事務調査報告を議題と致します。委員長の報告を求めます。委員長。

（中村委員長 登壇）

○委員長（中村進委員長） 産業建設常任委員会、所管事務調査報告。本委員会は、申し出た案件について調査を終了したので、その結果を次のとおり会議規則第77条の規定により報告する。

（以下、調査報告朗読）

○議長（吉田好宏議長） 委員長の報告が終わりました。これより質疑に入ります。質疑ありませんか。はい、7番。

○7番（橋場 守議員） 7番。文章上の事なんですけども、多目的ホールを数年後に建て増しする案もあるが、と言って、多目的ホール建設を凍結すると書いてあるのですが、この凍結するというのは数年後をつけなければ同じ内容なんですよね。下の方に行くと町民会館を改修して整備して、利用活用していくことが最も望ましいということなので、この凍結ではなくて止めろという事でない、後ろの文章とちょっと合わないのではないかと思うのですけどもどうでしょうか。

○議長（吉田好宏議長） はい。

○委員長（中村進委員長） 極端に表現するとうまくないかな、というかたちの中で、一応柔らかく凍結という形にさせて頂いたので。

○7番（橋場 守議員） 一再一 けども、柔らかくしても意味としては凍結というのは、必ず後にもう一回やるという事に繋がるから、やはりちょっと書き直した方がいいのではないかと思うのですが。

○委員長（中村進委員長） あもう、私の言ってる事は、まあ橋場さんの言われるとおりでと思うので、まあ中身としては中止を願っているのですけども極端に表現するとうま

くないからということで、柔らかく表現をさせて頂いたということ。

○議長（吉田好宏議長）他にございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）質疑なしと認め、質疑を終結致します。これにて本報告は終了致しました。

（議事日程の順序変更）

○議長（吉田好宏議長）議事日程の順序変更について、お諮り致します。この際、日程の順序を変更し、日程第7、認定第1号。平成10年度沼田町一般会計等歳入歳出決算認定について、日程第8、認定第2号。平成10年度沼田町水道会計事業会計歳入歳出決算認定については、日程第5、町長の一般行政報告並びに教育長の教育行政方向の次に変更し議題に致したいと思えます。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）ご異議なしと認めます。よって議事日程の順序は変更して議題とする事に決しました。

○議長（吉田好宏議長）日程第5、一般行政報告を議題と致します。始めに町長。

（西田篤正町長 登壇）

○町長（西田篤正町長）本日、平成11年の第3回の定例会を召集させて頂きましたところ、繁忙時期にも係わらず全議員の皆様方のご出席を賜りました事を、心から厚く御礼を申し上げたいと思えます。6月の定例会以降の一般行政報告について、申し上げます。

（以下、平成11年度一般行政報告書を朗読）

○議長（吉田好宏議長）次に、教育長。

（久本博美教育長 登壇）

○教育長（久本博美教育長）平成11年度第3回沼田町議会定例会にあたり、6月定例会以降の教育行政報告を申し上げます。

（以下、平成11年度教育行政報告を朗読）

○議長（吉田好宏議長）以上で、行政執行方針を終わります。

○議長（吉田好宏議長）日程第7、認定第1号。平成10年度沼田町一般会計等歳入歳出決算認定についてを議題と致します。本件は、例年どおり全議員の決算特別委員会で審査することに致したいので、簡潔に提案の説明を求めます。財政課長。

○財政課長（中村幸雄課長）認定第1号。平成10年度沼田町一般会計等歳入歳出決算認定について。地方自治法第233条第3項の規定により、平成10年度沼田町一般会計等歳入歳出決算を、別冊、次の頁に載ってございますが、監査委員の意見をつけて議会の認定に付する。平成11年9月20日提出。沼田町長名でございます。別紙意見書でございますが、次の頁から載せてございますが、その他に別冊といたしまして、平成10年度の決算書、及び決算説明書をお配りいたしてございますので、何卒ご審議の程よろしく願います。以上です。

○議長（吉田好宏議長）次に、監査委員の決算審査報告を求めます。監査委員。

（岩寺監査委員、登壇）

○岩寺監査委員 山田監査委員と共に監査を致しました。その結果を、ご報告申し上げます。

（以下、平成10年度沼田町歳入歳出決算審査意見書を朗読）

○議長（吉田好宏議長）監査委員の報告が終わりました。お諮り致します。ただ今議題となっています、認定第1号は議員全員による決算特別委員会を設置してその審査を付託し、次期定例会まで閉会中の継続審査に致したいと思っております。

更に、本特別委員会に地方自治法第98条第1項の規定による検閲、検査権を付与致したいと思っております。これに、ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）ご異議なしと認めます。よって、本案は、議員全員で構成する決算特別委員会を設置し、これに地方自治法第98条第1項の規定による検閲、検査権を付与してその審査を付託し、次期定例会までの閉会中の継続審査とすることに決しました。

○議長（吉田好宏議長）日程第8、認定第2号。平成10年度沼田町水道事業会計歳入歳出決算認定についてを議題と致します。提案の説明を求めます。建設課長。

○建設課長（野々宮宏課長）認定第2号。平成10年度沼田町水道事業会計歳入歳出決算認定について。地方公営企業法第30条第4項の規定により、平成10年度沼田町水道事業会計歳入歳出決算を、別冊、監査委員の意見をつけて議会の認定に付する。平成11年

9月20日提出。沼田町長名でございます。

○議長（吉田好宏議長）次に、監査委員の決算審査報告を求めます。監査委員。

（岩寺監査委員、登壇）

○岩寺監査委員 山田監査委員と共に監査を致しました。その結果を、ご報告申し上げます。

（以下、平成10年度沼田町水道事業会計決算審査意見書を朗読）

○議長（吉田好宏議長）監査委員の報告が終わりました。お諮り致します。ただ今議題となっています、認定第2号は所管の産業建設常任委員会にその審査を付託し、次期定例会まで閉会中の継続審査に致したいと思えます。

更に、本特別委員会に地方自治法第98条第1項の規定による検閲、検査権を付与致したいと思えます。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）ご異議なしと認めます。よって、本案は、産業建設常任委員会に地方自治法第98条第1項の規定による検閲、検査権を付与してその審査を付託し、次期定例会までの閉会中の継続審査とすることに決しました。休憩を致します。

13時46分 休憩

14時24分 再開

（岩寺監査委員 不在）

○議長（吉田好宏議長）再開を致します。日程第6、一般質問を行います。始めに、町長に対して順次発言を許します。初めに、14番。杉本議員、農業問題の1のイロハについて質問して下さい。

○14番（杉本邦雄議員）14番。杉本です。3点ほど伺いをしたいと思います。まず一つ目には雪中米の販売についてであります。次年度から米の生産調整は、産地銘柄別の販売動向に連動した計画生産に転換されるということでございます。米の環境は、大きく変わってきているということは、十分ご承知のとおりだと思います。その事は、11年度の在庫。今年の米が最終処分される頃には、300万トン近くの在庫が残ると。消費減、作況の良さから、70万トンが年度内に増えるという状況の情報が流れております。そういう中で、町としては基幹産業である農業について大変なご支援を頂いておる事は十分承知

の上でございますし、先般の定例会においても町内における消費拡大のご努力をされているという事で、私達も感謝をしているところでございます。

しかしながら、この競争原理はいよいよ激しくなることが、今言いました～～の販売動向に連動した計画生産。早い話が、売れない所は休みなさい。売れるところは、作りなさいという方向に大きく転換されるという現状であります。そういう意味では、素晴らしい施設が出来て、雪中米がどんどん売れているだろうと私も思っていたんです。

ところが、先般も全員協議会で議員全員で全道研修を視察致しましたがけれども、その時にあちこちのお話を聞きましたら、沼田の中で夜高の町、ほたるの町、雪中米の町、明日萌の町と、こういう事で聞きましたけれども、そういう町があるのですかという位、十分全道の道民の中でも理解されていないのです。ひまわりの町はどこですかと言うと、北竜ですということです。そこで、びっくりしたんですが、その裏をずっと調べて行きますと、こういう事なんです。ホクレンは10年度の米まで、これについては共に売って行くといえますか、抱き合わせ販売といえますか、売れるところも売れないところもホクレンと一緒に売りたいという考え方なんです。11年産からは、応益負担。売れるところの米は高く価格を上乗せしますし、売れない所は自分で処理しなさいと、こういうふうに変わっていくんです。それと合わせて、今言いました計画生産が変わっていくと。こういう事があります。それで、先般も経団連の鈴木会長、多田会長が来た時に聞いた話でありますけれども、この中でラルズの会長が、どうして来たんですかと、こういう事なんです。それは、雪中米或はそういう備蓄構想に対する考え方で来ているよという事があります。その後の話が、大変なんです。全道といえますか札幌周辺の中で、雪中米販売の店舗は40店舗以上あるそうです。しかしながら、品物が置いていないという事なんです。ラルズの会長がびっくりして、雪中米置きなさいと言ったそうです。これはどうしてかと言いますと、消費者はテレビを見ておりますけれども、雪中米がどこに売っているのか、デパートで売っているくらいは知っていると思うのですが、近くの所で売っていないというのが分からないのです。私調べましたら、各区、札幌の区の中で3店舗位は雪中米を売っているところが必ずあるんです。そういう意味で、6月に私、クラス会がありまして、雪中米の話を50人以上集まった中で、皆さんにしたんですが、どこに売っているんですか。沼田から出た同窓生がそう言うんです。私もその点勉強不足でしたから、どこで売っていると言いましたらちょっと分からないので、空知米穀に問合せましたら、その40店舗以上の書類が来ました。これを送りましたら、これは私の近くで売っているのですねという事な

んです。そういった意味では、行政としてやはり沼田から出た同窓生なり、あるいは沼田会。こういう人達に、なんらかの手づるで、雪中米はこういう所に売ってますよというふうに連携をとっていく。その事によって、消費者として沼田の米がほしいよという声があがってきますと、当然たくさん作ってほしいという結びつきになると思うのです。そういう事を行政で出来るのではないだろうか、農民が良いものを作らなければいけませんし、農協も努力して作らなければいけませんけれども、勿論農協としても、その対策をとらなきゃいけません、行政とタイアップしてそれらの対策をとれないだろうか、このことが考え方でございます。そんな事で、町長さんの伺いをしたいと思います。

次に、農産加工についてでございます。まあ、ここに書いてあるとおり、国の財政難から社会資本整備或は、公共事業等の整備の縮小が将来考えられると思います。現在、色々な意味で公共事業のバックアップということで国も大変な予算をかけて、行っております。そんな事で、仕事が少ないという声もありますけれども、結構働き場所があるという事ではないかと思えます。しかしながら、将来この減少がずっと続くであろうかと、そのことを考えますと、これはNOに近いのではないかと、そうなりますと、地方分権という時代の中で、地元から雇用を促進する、或はユニークな発想の中で、雇用の道を広げる。これを雇用転換と言っているのか分かりませんが、それと同じに、農業の振興と合わせて農産加工の道はないだろうか、いろいろ調べてみますと、たとえば沼田の加工場がありますが、今若い人達に爆発的に人気に売れているのは、肉じゃがとか、無菌米飯です。これは平成7年の時に我々自費で新潟まで研修に行きまして、研修したんですが、岩見沢にも毎日、12万食作れるような施設が出来ている。このように4年間の間で、大きく状況が変わってきております。東京或は新潟でやっているものが、もう北海道でやっている。こういう状況を考えますと、もう肉じゃがとかそういうものが売れている背景の中で、若い人の嗜好がどんどん変わっていく。そういう情報を捕まえて、例えば沼田であれば、加工場でどうして出来ないか、この事はラインが国際規格にのっていない。それでないと、肉じゃが施設を作ってほしいといっても、それは無理である。そういう意味で、沼田の工場を改修する或は、改造する。この事については、いろいろ検討の余地があると思えますけれども、私考えるには、どちらかというところ公共事業がどんどん少なくなっていくと、一度こんな話も聞いた事があるのですが、沼田近くの業者では大きな業者ひとつあれば良いのだという話まで聞いたことがあります、そこまで極端に行かないとしても、これから沼田分権時代の中で、沼田で建設業をやっているのだけれども、将来先が厳しいと、それなら

違った方向もあるぞと、そういう道の考えるような業者がいたり、或は新たにやってみたいという業者がいたら、こういう道を開くための対策、やはり国際規格にのったラインでなければ物は作れませんから、そういう物についての行政の支援として企業誘致も立派な仕事でありますけれども、これも限界があるだろう。そうなれば、金融的な支援、いろんな支援を含めながら、そういう道を探して行く。こういう事であれば、農林省に行っても地方からの発想の中で将来、地方が生き残れるための対策だという説得力が十分あると思うのです。そういう努力をする考え方が、町としてあるのかないのか、こんな事で伺いをしたいと思います。

次に3番目であります、農家の実態調査が平成10年、これ毎年農協で行っている中身であります。この回収率は、224戸でありますから、約90%位の回収と踏まえていただきたいのでありますが、90%のこの数字をどのように分析するのかという事は、それぞれの人によって、或は組織によって見る角度が違うと思うのでありますが、これを私なりに見た中では、平均的な耕作面積は書いておりませんが、14町2反。この224戸の平均面積がこれだけ拡大しています。その事は、農地がかなり移動されて集約されているという意味で、農家戸数がどんどん他町村より減っている。このことについては、毎回私も質問させて頂いているのですけれども、その中身であります。たとえば、後継者問題。これらをずっと見て行きますと、50歳以降の年代層、これが63戸。後継者なしが63戸くらいになるのですか、或は30歳から50歳まで、これまでの後継者の未定、これらも100戸近くになります。そういう事を見て行きますと、なるべく後継者は作らない様に、けども土地は売りたい。こういう現象が見えてくる訳なんです。そういう中で、現在は、祖父母或は若い者と二夫婦で特作もやれるわけですね。若いもの夫婦で14町作って、更に特作やれというのは無理な話です。祖父母がいるから、なんとか花でもメロンでもやれる。この現象がこのまま15年いきますと、まあ未定の後継者がどれだけ育成されるか分かりませんが、現在のところ、かなり後継者を置きたくないという考えの方が、大半です。そうなりますと、いよいよ農業に対しての空洞化、或は遊休農地これがどんどん出てくる事になるのです。更に、特作は進行しておりますけれども今の年代層。祖父母方が、高齢者になってきますと、これが出来ない。そういうふうになって来ます。そこで、これは北竜の例をいつも挙げておりますけども、確かに北竜の成功率が良いとか、悪いとかや、新規就農についてもいろいろ言われておりますから、その事は受け止めたとして、それでは沼田ではどうするのですか。その考え方を、町長の考え方を聞きたいと思

います。ひとつには、農業振興策の方向性。後継者がいない中で、或は高齢になっていく中で、振興策はどうするのか。それから、後継者対策。これらについてもどういうふうに考えておられるのか、更に農地流動化、現在でも売れない農地が私達の地区にも出てきております。そういう中で、これらについてどうされるのか、これらについて非常に農業状況は厳しい中で、何らかの対策をしなければいけない。特に後継者対策は5年、10年の長い気持ちでやらないと、すぐ一人前になる訳ではありませんね。私も農家やって10年目にやっと一人前になったか、ならないか、こんな感じでおりますから、おそらく10年かかると思います。その中で、この数字を見ながらどう考えておられるかお伺いしたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）はい。

○農業振興課長（矢野潔課長）お答えさせていただきますけども、不足なところにつきましては町長からお答えいただければと、よろしくお願ひしたいと思います。

一つ目の雪中米の販売関係でございますけれども、米の在庫、本年の豊作。これらを、予測をしまして、来年10月の同期で70万トンの上乗せと、トータル的には300万トン前後という予想をされている。こんな事でお話ございましたとおり、そういった情報になってもございます。また、これも大きな北海道農業にとっては、また沼田農業にとっても、大きな課題というふうに認識をしておりますけども、生産調整。従来の面積配分から、逆に生産量が配分されるという事で、その生産調整方式も大きく変わる訳でありまして、特にその中で価格などから自給を算出する。こういうじくうがございます。これにつきましても触れられておりましたけれども、当然銘柄米或は、北海道米。そういう中で、比較を致しますと、当然にして北海道米が一番安いわけであります。そういった事を考えますと、前段の自給の算定そういった事からの観点では、当然転作が上乗せをされてくる。そういう大きな課題といいますか、懸念をされる。こういう認識でおりますけども、これにつきましては、そういう手法が変わった訳でありますから、系統を継いで、北海道米についても、昨年から取り組んでおります、高品位米、良質な米の生産。こんなことに強力な体制の中で取り組んでおりますから、そういった事も是非系統を通じながら、国にアピールをして、決してそういった事情から転作上乗せされる事のないように、早くからの強力な運動も必要なのかなと思います。そういった中で、米余り、更に転作手法が変化する中で、当町の雪中米でございますけども、これがある程度は、引き合いの中で一定の評価で販売されておりますけども、しかし、全体的な米の自給、米余り、そういった事を考えま

すと、当然在庫、そういう物が多くなってくることも予想されますし、現在当町で農協さんと系統と連携をとって、やってきた事が2、3ございますけども、この近年では基本的には雪中米の増産。当初は、3万6千俵でございましたけども、これらでは、市場の信頼、量的な不足からこれを増産をするという事から、当初は町が事業主体ということで契約をしてございましたけども、農協さんがそういった増産体制、補助導入の中で8万俵の雪中米と、そういう中で、売りさばき努力をされておりますけども、当町につきましても、新米のキャンペーン。あるいは、明日萌を中心にしたものであります。雪中米、キララでございますが1キロ詰めを、米の販売戦略こういう予算の中で、それぞれ実行してきているところでございます。特にご指摘の、道内でどこで当町の雪中米が売られているか不明である。或は、手に入れるには容易でないと、こんな事でご指摘ございました。たしかに、そのような形になっておりますけども、これにつきましても本年から本格的に道内にある米穀店を通じて、道内に出回ったというのが実態でございます。本年1年目でございます。そういう不足なところがあるかなと思いますし、特にPRについても、私どものほうにも、府県のほうから沼田の雪中米買いたい、どこで買えばいいのか。こういう問い合わせもございますし、まあ2年、3年そういう時間をかけて、そういう長い感じではいけない訳でありますけども、早急にそういったネットワーク作りと申しますか、容易に消費者の手に入るように、そういったPRも積極的に取組んでいくべきと考えております。

この事については、系統とまた十分相談をさせていただければと思います。それから、2点目の農業振興の面から、農家加工の拡大。こういう事で、ご質問がございました。確かにこれも、ご指摘のとおり現在当町には農産加工場もございますし、あるいは国の政策指導の中では、農業、農村においては農産物を生産のみならず、加工販売。そういった面で、重点的に取組んで、努力をすべきであると、こういった指針も示し、指導もでございます。残念ながら当町につきましても、トマトが主でありますけれども、一部のカボチャ、紫蘇、一部でありますけれども、非常に極小でありますけれども、そういう中で地場産の農産物を加工、そういった取り組みが、そう増加傾向は見られませんが、そういう中で取組んでいるところでございます。まあ、しかし言われました、肉じゃが或は米飯、若者の方々がそれぞれ消化をするそういった、いわゆるヒット商品ですか、そういった物に着眼をして当町で取組んではということでもありますけれども、これにつきましても非常に、一口で申し上げまして、採算の面が非常に懸念されるところであります。心配が多い訳であります。特に、これも決してヒット商品ではありませんけれども、大豆を加工してビ

ックビーンズと称して、一部の方が、農村女性の方がハンバーグなり、大福餅なり色んな健康食品と称して、今一時的なことでありますけども、そういった状況もございますけども、これらを細かなものの積み上げからということで、それぞれのグループにおける生産品目、それらを再度確認をして、そしてそれが採算ベースに載せるには、何が課題なのか何に取り組むべきなのか、そんな事を早急にまた洗い出しをして、課題整理。そういったことに整理をさせて頂ければと、こんな事でいずれもこの雇用に結びつく加工、大事な事がありますけども、非常に課題、ネックが多いと、こんな事で認識をしてございます。

それから、最後に農業振興の方向性、後継者、農地流動化対策でございまして、これにつきましても、それぞれケース一覧をご提示を頂きまして、沼田農業にとっても、非常に多くの方がかかえている状況にもございます。特に、今回町づくり懇談会、各部落の方に懇談をした中で、特に農業関係とか農地の流動化或は後継者更には、農産物。これは米の価格でありましたけども、価格の安定。そんな事で重複、同じような意見もございましたけども、かなり差し迫った大きな危機をもつ、そういう状況で生産者の方から大きな声が上がっていた所でございます。その後、沼田農業を考える会という事で、これも新聞で報道されておりましたけども、町の主催によりまして、一部の方でございましたけども、これから農業をどうすべきなのか、こんな事で2時間、長時間に渡りまして議論を頂いたところでもあります。いずれも、我々も担当としては、今農業が大変だ厳しい、こういう中で色んな表現をされておりますけども、そういう中に今一番の当町にとっても農業の大きな課題、これは農地の流動化でなかろうか。こんなふうに認識をしているところがございます。若干係数が違うようでもありますけども、我々の方で把握しているのは、60歳以上の方が、約でありますけども60戸ほど。更にこの方の保有されている面積は、554ヘクタールほどになりますけども、約560ほどになりますけども、そういう中で、これが65で定年であれば、あるいは5年後、10年後当然そういった農地の流動化すべき面積が想定されるわけであります。特に今回大きな関心を寄せた訳でありますけども、農業開発公社が、土地を一時買い上げて一時保管管理をすると、これは5カ年間。そういう中で、空知の大半がその会議、あるいはその事業に参画しようとして、出席をした訳でありますけども、中々新聞報道とは違って、細部に渡っての管理の規則、そういったものに踏み込む段階では非常に地元の責任が多い、こういう状況にあった訳であります。この事業が緊急農地保全対策事業でありますけども、これは遊休農地解消のためには当然率先してこの事業を導入すべきであると、こういう概念でございましたけども、特にこの中では、仮に

50万程度の10町分の遊休農地が出たときに、地元の負担がどの程度になるのか、非常に1年当たり数10万という地元の負担でありまして、非常に小額で容易であろうと。しかしこれが、5ヵ年という中で負担をしなければならない。それはまあ、ある程度財政的なもので負担したとしても、最終的に5年後に買いうけ予定者が書面に、私はその農地を買いますよといっても、5年後に色んな状況の変化で、買取が出来なくなったそういう意思がなくなった。こういった時には、本人に責任を持たず訳に行きませんので、これは地元が責任持ちなさい。これは地元と町なり農協で、その農地を50万なり数十万の価格の財産的責任。或は、処分の責任。そこまでが地元で課せられた訳であります。いずれも、長くなりましたが、そう言った事で、今後かなりの農地が、遊休農地になっていくのかどうかは別にして、スムーズな農地の流動化そういった事を、促進させるために事前の対策、これらを十分系統と相談しながら、取組んでいかなければならないのかな。特に、今回機構の改革の中で、企画室というものを設けさせて頂きまして、この企画室の業務内容としても、町長からかねがね十分流動化についても、その他後継者問題についても、早くその課題整理をしながら、取組む対策、方策、それは何であるのか。こんなことで早急に整理をなさないと、こんな事にもなってございますし、事務担当として、現状を十分認識をしながら、今後取組んで行きたいと考えておりますので、宜しくご理解を頂きたいと思いません。

○議長（吉田好宏議長）はい。

○14番（杉本邦雄議員）一再一大半については、私と同じ情報の中で答弁されているかなと考えております。特に答弁の中で雪中米販売について、或は米の販売について言われておりましたけれども、この系統、これは中々系統を十分信頼しなければいけないとは思いますが、中々出る釘は打たれるというか、産地とも特色ある米作りに奔走しておりますから、なんとかホクレンを動かそうと、そういうことで、ちょっと雪中米と出ると、ホクレンも他のほうから圧をかける。圧をかけるという言い方になるのか。ちょっと、そんなに無理して応援するなど、こういう事になると思うのです。そういった意味では、私はホクレンは信用しながらも、ブレーキをかけている部分があるという事を十分認識していかなければならないと思うのです。そういった意味では、どうしても消費者の見かた。こう言うものが重要になってくると思うのです。消費者が雪中米をほしいと言う事で、どんどんホクレンに言って行くとか、そういうふうになってきたら、ホクレンもそれに無視するわけにはいかないのです。だから、そういう意味では、今、これから十分対策を立て

てという答弁がありましたけども、もっともうひと押し、力を入れて、ホクレンぐらいまでに、雪中米がほしいと言うくらい消費者の声が上がる対策、そういうったものがあれば当然動かなきゃいけない。～～～の～～会長や、鈴木会長が来たから動いたというのでは駄目なんですよね。やはり、消費者がほしいんですよと、その事によって沼田の雪中米もっと作ってくれんかと、そうすれば転作をしなくても良いと、特に例年転作しながら、今年も畑作物、殆どが全滅。こういう状況で、4年か何年かに一遍は良い事もありますけども、大変な目にあってやっているのです。機械の二重投資であるとか、労力が足りないとか、こんな面で大変な目にあっております。そういった意味では、本来の水稻を作って消費者から喜ばれる、ほしい。こういう我々の対策が必要でないかと、これは個人でもできる事ありますけれども、やはり組織、農協、系統、それから行政、町民一体となって、これらの対策をすることによって、その成果が上がってくる。このように思いますので、もうひと押し、ひとつ前向きの姿勢でお願いをしたいと、その町長さんの考え方を伺いたしたいと思います。

加工の関係については、答弁のとおり非常に採算ベースからと言う事になれば、非常に難しいものがあると思います。全てが競争原理でありますから、その内容、出来たもの、或はコスト。色んな面で競争の中で、立ち向かっていかなければいけない。その事は、十分承知であります。ただ、将来的にこのままでいいのですかと、その事を町長さんにお伺いしたいと思います。将来的にこのまま、ほおっておいていいのですか。私はたまたま例を出しておりますけども、町長さんは別にこんな方式もありますよという考え方がありましたら、伺いをしたいと思います。

次に、この3番目の関係については、全ての問題は後継者にあるのです。後継者が潤沢に育っていれば、こんなに離農者も増えませんが、農地の流動もそんなになくて良いんです。やはり後継者が十分育っていないから、こういう問題が出てくる。特に農地流動化対策の問題では今、答弁ありましたとおり、これは道の緊急対策ですけども、先般の新聞報道によりますと、20カ町村が手を挙げている。隣の北竜町も手を挙げたんですが、実施に至ったのは3町村、後の17町村は次年度以降考えるという内容です。沼田については、手を挙げたかどうか私分かりませんが、その辺の答えと同じに、農地流動化対策、これは最後の後始末なんです、その前に後継者を育てなければならぬのです。私はもう議員に出てから後継者対策を何回やったか分かりませんが、一生懸命やっているつもりですけども、中々前向きの対策が出てこない。それは金は掛かりますよ、子供育てるの

に20年も、25年もかかる訳ですから、それは確かに効率悪いです。でも、北竜のように5軒入って2軒成功したよと、それは金かかって大変だと思うのです。でも、将来的にその2軒が、生きていく伸びて行く、そういう意味では成果があったと思うのです。それを、100%成功させようという考え方でやると、それは無理です。既存の農家でも、何割かは脱落していくのですから。その事を考えると、そんな100%5戸来たから、5戸育てていかなかったらうまく行政としては成果が挙げられなかったという考え方では、これは後ろ向き対策です。やはり前向き対策の中では、金と労力。苦悩の連続だと思います。これは後継者いる人は、みんなそう考えていると思います。ですから、なんとか来てもらえるような対策とか、なにか方法を考えておられると思うのです。その面で、町長さんの考え方をお伺いしたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）町長。

○町長（西田篤正町長）大方は先程、農業振興課長の方から答弁しておりますので、要点だけ申し上げたいと思いますけど、雪中米の販売につきましては農協さんの考え方と言いますか、私ども何回か町長になってからお聞きした事がありますけども、やはり系統を大事にしたいという考え方が強いんです。それじゃ系統でのっている時に行政がどこまでやれるかという所が疑問だと思うのです。それが自主的に、農協さんがどんどん自発的に販売するという事になりますと、町としてもそれなりの支援というのは可能な面も出てくるかと思いますが、将来的に米が売れ残った時或は、色々な面を考えると、農協の組合長さんの考え方としては系統を大事にしていきたいという考えが強いという、この事だけは理解頂きたいと思いますが、そういう中で、地元から出ております卸業者の社長さんもいらっしゃいますので、一生懸命努力を頂いて、今販売を頂いております。私どもやはり、町が今、HTBでご覧になった方もいらっしゃるとは思いますけれども、それぞれの時間帯にスポットを入れて、色々な宣伝を今入れておりますけれども、そういうような物の中にやはり年間120万位のお金がいるんですけども、それを雪中米の部分ですとか、そういうのに十分使いながら、メディアを使って宣伝をする事によってそういう卸業者の後押しをしてあげられるという、そんなふうにも思ったりもしておりますし、できればパソコンがもう既に私どもの町でも使えるようになっておりますし、それぞれ農家の皆さん方あるいは、消費者の皆さん方もそういうインターネットを非常に使っている方も多いようですから、インターネットに乗せて雪中米を全国的に今の時代、PRする必要もあるのではないかと、そんなふうにも思っております。

いずれに致しましても、作って売る体制の農協さん、そこと十分話し合いをしながら町があまり先行しすぎて、どうも農協さんの考え方とずれてしまう事のないように、十分連携をとりながらやって行きたいと思えますけども、最終的には今課長が説明しましたように、企画室の方でそれぞれ総合的に、今農業をどうすべきだという事を3月までに結論といただけますか、おおよその目処を出す方向で一生懸命努力していますので、その中で私はやはり、沼田としてどう支援して行くべきか、行政としてどう支援して行くべきか、どういう対策を取らなければならないか、これは流動化対策もそうですし、後継者対策も同じだと思うのですが、そういうものがある程度見出した時に、議会の皆さん方にその概要を説明申し上げて、重点的な予算の配分をして使っていかなければならないと思うのです。相場的に、これもこれもというような事でやりますと、中々実行が上がらないというのが従来のあり方だと反省しておりますので、できればこの部分については3年間重点的に支援をさせていただきますという、そういう一定の方向を見出して、商工業者の皆さん方或は、勤労者の皆さん方、給与所得の皆さん方の理解を頂きながら、沼田の農業を今救うためには、この事が最重点でやらなければならないのだという事を理解を求めたうえで、重点的な予算の執行をさせていただきますと思っております。そういう意味では、今課長が話しました9月の6日に、そういう懇談会をやりましたし、この後はもっと若い未婚の男性を対象にする場合もあろうと思えますし、農業に他町村から嫁いだ皆さん方との話し合いの場も持ちたいと思っておりますけども、そういう中でそれじゃ皆さん方がどのような事をすれば、後継者のあれが出来るのかというような事も意見を聞きながら、総合的に判断をさせていただきますいなと思っております。

特にこれは、農業新聞18日の土曜日に出た分ですけども、本当に大事だなと思って切り抜いておりました。農林省と文部省が農業体験を充実させなければならないという事で、打ち出しているのです。これは議会の議員の皆さん方何人からも、そういうご指導もいただいておりますけども、私はやはりまさに、今の沼田に住んでいる子供達に、そういう農業体験をして頂いて、その農業の楽しさが分かるような、そういうカリキュラムというか、そういうものを是非学校教育の中に取り入れて頂くような、これが地域の特色を生かした教育だと思いますので、そういう要請を教育委員会あるいは学校の方にしていきたいと思えますし、こういう補助事業が出てくるという事ですから、それを期待しながら私はそういう地道な事業展開をしながら、そういうものが出来るだけ子供達の中に浸透するような、その中から自らが農業に従事をしたいという子供達が生まれ育つような、そんな事を考え

ていきたいと思っております。それは何故かといいますと、さっきも申し上げました、懇談の中でも、若い人達は実際にやはりそういう事を体験する事によって、喜びを感じるんだという発言もありましたし、そういうものを大事にしながら、きっと時間はかかるとおもいますが、地道な努力をして沼田の農業の後継者が育つようにしていきたい。

それから、たまたま今日ご出席の農業委員会の小西会長さんからもアドバイス頂いて、私はこの間国会議員あるいは、道会議員の皆さん方の懇談の場所で申し上げたんですけども、従来65歳で農業者の移譲年金が65歳過ぎますと、もらえなくなってしまうんですけど、それをもう少し年齢を引き上げて、70になっても農業移譲年金がもらえるような、そういう制度にしてほしいという事を陳情申し上げておりますけれども、そうすることによって今の農業の従事者が後5年、健康でショートトリリーフ的は役割を果たして、農業の担い手になって残っていただけるのではないかと、そんなような考え方もしておりますし、そういう説明しましたら若い青年は、そういう移譲年金をもらいながら農業に従事できるような、もう一歩進んだ考え方で運動すべきだというお話がありました。そういうことをひっくるめまして、そういう方向でまた、町村会とも通じながら提言をしていきたいと思っておりますが、いずれにいたしましても道議の先生方と農村の先生との懇談会の中にも私も後で意見を聞かしていただきましたけれども、農業を営んでいる若い人達は非常に発言が少ないというのですね、自分達の置かれている農業の今日的な厳しさ、この事に対して外に訴える努力が非常に不足していないかという指摘を受けまして、農村の若い人達もそれは自ら認めておりました。もっと自分達が外に出して自分達の現況を、どんどん外に物を申せるようにならなければ改善されないなあと、自分自らそんな事を言っている方がいらっしやいましたけれども、そのためにもやはり私ども行政としてもそういう農業のこれからの担い手の皆さんと懇談する機会或は、農協の皆さんとの懇談する機会を通じながら、町の考え方、農協の考え方をこうすりあわせして沼田の農業のあるべき姿を模索していきたいと思っております。それは、従来申し上げましたように、総合振興計画の中にどうしても農業の部分というのは欠落をしたと言いますか、手をつけられなかったのだらうと思うのです。国の農業情勢が非常に激しく変わるのもですから、その部分を町としてこうやりますという事を打ち出せなかった。でも私は、そればかりやってたのでは農業の振興はあり得ないと思っておりますので、大胆に提言をして、13年に策定する沼田の第4次の総合振興計画の中には、沼田の農業はこうすべきだという、こうありたいという事をきちっと謳えるような、そういうような体制を作って行きたいと思っておりますし、意見の集約を図って行きたい。

その事が先程申し上げました、農業振興課を一本だちにした、その中には企画室を設けてそういう事を専門に考えてくれという事の現れだというふうにご理解をいただきたいと思います。3点の質問がありましたけども、総合的にまだ具体的に答弁できる状況にあるのはまだ少ない訳ですので、もうしばらく時間を貸していただきまして3月の新しい12年度の執行方針を述べるときには、ある程度の方向性を見出してある一定の予算の方向付けをさせて頂きたいというふうに思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）はい、14番。

○14番（杉本邦雄議員） 今色々資料集め、あるいは情報集め、その中で新しい振興計画の中で示してくるところという事でありますから、そのことを十分理解しておりますが、1点だけ、ホクレンが私特別悪いと言っている訳ではないのです。ホクレンを通じて売るという事については十分承知をしております。消費者からの声上がる事、沼田の米が素晴らしいし、食べたいという事についての前向きな対策をやった方がいいのではないかという事なんです。ホクレンは、ホクレンなりに金集めから全部やっているわけですから、それらの役割をしていると思うのです。ただ、さっき言ったように折角良いものを作っても、ちょっと出る釘は打っておくと、打っておけまではいきませんが、応援しないというか、黙ってても売れるのであろうと、そういう気持ちでいる所ですから、そうなれば消費者からの声が上がってこないとどうしても、どこに売っているのか分からない。こういう声が大半ですから、さっき言いましたように、すずらん町だとか、ほたるの町だとか、夜高の町だとか言っても、なんかピンときていないようなんです。それはテレビでもあれだけ宣伝していてまだ沼田が十分理解されていないと私は思うのです。そういった意味では、札幌に住んでいる沼田から出た人、沼田会ですか、色んなてずるがあると思うのです。それに大予算をかけてやるというものでもないと思うのです。それこそ、封書の1通でも、こういうところに沼田の雪中米のおいしいの売ってますよ。このことで、郷土愛を芽生えさしてもらおうというか、思い出してもらおうというか、そういう対策でも出来ると思うのです。それが、ホクレンがあるから農協がそういう考え方だからという事では、ちょっと前向きでないように思うので、その点についてはしっかりとお願いしたいなと思っております。私も、当然やっても限界がありますから、札幌に175万人も人がいる訳ですから、私の知ってる範囲というのは本当の極一部であります。そういった意味では、行政という手ずるの中では職員でも、沼田の同窓生が100人、200人という訳ですから、そういった意味では手ずるはたくさんあると思うのです。そういった対策をしていただければなという事

であります。

○議長（吉田好宏議長）はい、町長。

○町長（西田篤正町長）確かにおっしゃいましたように雪中米、或は備蓄の今の米バラ施設に対する回りのやっかみといたしますか、表現悪いですがそういう事が確かにあって、出る釘は打たれるという傾向があると聞いておりますけども、私どもやはり、そういう中で地道な努力をして行きたいと思っておりますし、冒頭申し上げましたように農協さんと余り考え方が離れた状態で、行政が先行するという事態は無理があると思っておりますので、そのへん農協さんとも十分話し合いをしながら、そういう物の考え方をお互いに理解をした上で、新年度に向けて予算化のために努力をさせて頂きたいと思っております。なお、従来ほたる館の米の問題で色々な論議がありますけども、私は地元のそういうものの声というのが、今杉本議員さん言われる、まず最初の〜〜〜すべきだと思いますので、今ほたる館で使用しております米を、地元の小売業者の皆さん方の協力と理解を頂きまして、地元さんの農家から小売店を通じて納入する方向で検討中でございます。ほぼご理解を頂ける状況にあると思っておりますけれども、そこでもし、そういうものが評価されることになると、やはりそれが沼田の商品の米だ、雪中米だという繋がり、または繋がって行くだろう。そういう事から少しずつ、一歩ずつ解決をしながらそういう努力をしていきたいと思っておりますし、昨年から東京沼田会につきましても、従来は加工場の品物をお土産に持って行ったのですが、昨年は雪中米を持って行きましたし、向こうの方からも雪中米の方が良いという要望もありました。先程話のありました、雪中米は食べて美味しかったのだけれども、都内で売っているところが無いという話がありまして、その辺も今年東京沼田会の役員の方とどっかでそういうものを引き受けてくれるところが出来ないかという事もふくめて、そういう相談をさせて頂いて、出来れば加工場のもの或は農産物、或は雪中米、そういうものを定期的に沼田の物を売ってくれるようなそういう所を是非、近いうちに東京のところに何処かに設けられるような、そういう努力もさせて頂きたいと思っておりますし、そういう話し合いを今回の東京沼田会の総会、懇談会に是非話し合いをさせて頂きたいと思っております。いずれに致しましても、一つ一つ解決していかなければならないと思っておりますので、また、適切なお指導を頂きたいというふうに思います。

○議長（吉田好宏議長）よろしいですか。はい。次に2番、野議員。農業問題1について質問して下さい。

○2番（野 道夫議員）2番。野です。ただ今杉本議員の方からも、農業問題について詳

しく質問があった訳でございます。私ども、町にいる人間として私も家庭が元、農業でございますし、農業畑の仕事をさせて42年間ほどいたのですが、職場を退職しまして後、色々農事組合の組合長として市街地区で代表して農協の会議にも参加をさせて頂いております。そんな事の中で、ただ今杉本議員さんの方からも色々なお話ありましたが、やはり角度を変えて、私達この農業問題について考えるならば、もっと雪中米についてもやはり雪中米になるまでの作付けの方法をもっと一般消費者が素晴らしい事やっから雪中米、プラス5度の温度で出荷をしているのだというものがなければ、PRするなにももの無い訳です。空知管内、全道、同じような作り方でそして雪中米、プラス5度で備蓄してそれをPRして売るという事は、雪中米だけ雪の冷温だけの事にしかならない訳で、それまでの課程の何かがなかったら私は、消費者に向けてのPRの力というものが、訴え方が弱いのではないかなと、こんな感じをしております。こういった問題も色々あると思いますし、それと色々な農家の経営関係につきましても、杉本議員の方から申しあげました、その中で私これから農業所得対策については、自治体での政策に限界があるのかなという感じを思いながら、私の方からこの農業問題についてご質問を申し上げてまいりたいと思っております。

農業振興について、北海道農業は何を作ったら良いのか見通しのもてない深刻な状況にある。国の対策は、もっぱら基盤整備予算の公共予算が中心である。今、農家経営にとって本当に必要な施策は、他府県等多くの自治体では価格支援の所得補償制度を導入しているが、わが町としても実施すべきではないかなというような事を申し上げる訳です。

又、今年の緊急課題として、米価の下落があるが、国への申し入れと同時に沼田町としての対策はどう検討しているのか、お示しをしていただきたいという事でございます。色々な補助金等も、行政の方から農協さんの方に出しておりますけれども、私は1期議会に出さして頂きまして、補助金等の内容を出した返りの資料が、余り頂いていない訳でございます。行政はやはり補助金を出したら中身的にどうなったのかという事も、やはり私どもに知らせるべきでないかな、我々も知らなければならぬと思いますけれども、やはり良かったのか悪かったのか、今後まだ更にこういったものが必要なのだというような訴え方も、私は農協の方からの文書化でもなんでもいいからあっても良いのではなかなという感じをいたしております。そんな事で、農業問題についてお伺いをいたします。

○議長（吉田好宏議長）農業振興課長。

○農業振興課長（矢野潔課長）ご質問の中で、農業経営の危機、米価の下落そういった事

がついておりますけれども、そういう中で、経営が大変なので一定の支援制度というご質問でありますけれども、過去米価が急激に下落をしてきた。その時から、降り返ってみますと色々な経営の持続といたしますか、そういう中で過去色々な方法の中で支援をしてきたところでございますけれども、これらについてもご承知かと思っておりますけれども、いずれもこれといった完璧な〜〜にも安定的な経営がなされるような、そういういわゆる特効薬的な物があれば良い訳ですけれども、また冒頭おっしゃられてましたけれども、財源的な限界、そういう事もお話があった訳でありますけれども、いずれもそういう状況下ではありましたが、過去に、何らかの節目ごとに、支援はなされてきたのかなと思っております。しかし、それは過去の事でございます、特に米価が回復する事なく、本年につきましても1万2千円の打ち切り報道がなされておまして、1万2千円に留まった場合、大変な農家の経営収支になるのかなと、こんなふうに認識をしておりますけれども、いずれもこれは過去、平成10年から稲作経営安定対策、こういった事で、国の財源を元に生産者は勿論、拠出をして来た訳でありますけれども、そういう中で過去3年の米平均価格に対する8割の補填。そういう中でなされておまして、本年につきましても、これらと同等10年と同様にこれらの安定基金対策が講じられていくのかな。それにしましても、1俵当り1,000円を超えるような状況にもならない、そういったことも予想しております。しかしこれは国の方の財源の中で、手厚く支援されるわけありますから、当然この制度は多いに活用すべきであろうと、またここ近年では、直接の所得補償、そういう中で中山間の地に対する所得補償が新聞報道もされておりますけれども、これがまだ具体的に明確になっておりません。傾斜地20分の1以上が云々ということで、金額的な事も提示をされておりますけれども、細かな条件、そういったものがどの程度の条件でクリアされるのか、沼田にとってどれほどの農地が直接の補償されるのか、非常に関心が高い訳でありますけれども、まだこれらについては明確にされてませんし、近く支庁のほうから説明会があるようであります。いずれも、これも本町に有利に働くような中で農業者のにとって有利に展開されるように、十分事務的に取り進めていきたい。こんなふうにも考えております。また、本年につきましても、多少米、主産物でありますけれども、病虫害ですとか色々な状況も伺っております。いずれも、全ての調整をされた中で、本年の農業全体を見渡して次年に何が対策として必要なのか、これらについても企画室、そういう中で十分農協とも連携をとりながら、〜〜〜詰めていきたいと考えておりますので、よろしくご理解を頂きたいと思っております。

○議長（吉田好宏議長）2番。

○2番（野 道夫議員）一再一 ただ今、課長の方からの説明で、分かったわけでございます。ただですね、私今、この農業に関する米価を初め、制度的改善要求の要請活動を町長先頭に、道・国に向けて展開をして頂きたいということを要望申し上げておきます。もしよければ、町長の方からこういった問題について空知管内、そして又、全道の首長さんそろってひとつ又、中央の方に陳情するというような事があれば、力強くひとつそのへんを国の方に攻めていただきたいな、このように考えておりますが如何でしょう。

○議長（吉田好宏議長）町長。

○町長（西田篤正町長）今、お話ありましたように町村会も、農業問題は私どももやはり北海道の基幹産業というふうに言われておりますけれども、大変な地域の崩壊に繋がるという認識をもっておりまして、私どもの身近な問題としては、雨竜川中央の幹線に伴う償還金の問題ですとか、個々にもう少し小さい単位で意見をまとめて要望する機会があつていいのではないかという反省が今出ていまして、おそらくそういうような単位での要望活動が出るのだらうと思います。空知管内ひとつで要望してもですね、雨竜川中央と言いますのは北空知しか関係ありませんので、中と南の方はそういう～～は関心ありません、タッチできないという事もありまして、できれば北、中、南のブロックごとにそういう重点的なものを持って行って、じっくりデータを持ちこみながら説明していこうということで、今、農開さんの方からも非常に詳しいデータも頂いてますので、それらを持ちこんで農業の経済状態はこうだと言う事を訴えて行きたい。そのような考え方で今進めておりますので、更に橋場議員さんのほうから後ほど質問があるようですけれども、先程申し上げましたように、農家の皆さん方と町民の皆さんが一体となって、もう少し声を大きくしなければ国を動かすような事にはならないと思いますので、そういう方向のあり方も農協さんとも良く相談させていただいて、進めさせて頂きたいというふうに思います。

○議長（吉田好宏議長）いいですか。次に介護保険問題2について、質問して下さい。

○2番（野 道夫議員）2番。介護保険制度の問題について、ご質問を申し上げます。介護保険制度の町の取組みについて、平成12年度からスタートする介護保険制度に対する国民の期待と信頼感はあまりにも、不備や問題点が多く残念ながら極めて低いものと言わざるを得ません。制度導入に向けて準備が進められていますが、制度の内容が明らかになるにつれて、保険料が当初の基準額を大幅に上回る市町村が多くなると見込まれること、認定基準の分野では認定結果について利用者に対する説明が極めて困難である事、又、介

護基盤の整備状況に関する不安が解消されていないことなど、多くの問題が指摘されています。保険料についても、第1号被保険者は、市町村が設定した保険料及びサービスを利用する都度、かかった費用の1割を負担します。国民年金の受給者にとっては、年金の大半が保険料と介護サービス利用料の支払いになってしまう。本町の保険料の設定について、時期も含めて示してほしい。また、低所得者等の対策についても国の制度を踏まえ、本町としての考え方をお伺いしたい。

○議長（吉田好宏議長）はい。

○健康福祉課長（松田剛課長）野議員さんからのご質問であります。保険料の設定及び時期ということになっていますが、これにつきましては先般の町づくり懇談会で報告致しました、沼田町は現在のところ3,300円から3,500円位で設定したいと考えております。最終的には、来年の1月くらいまでに国のワークシートによる指導がありまして、最終的には町として2月くらいに保険料を設定致したい、そして最終的には3月の定例会に提案し、決定を頂くと、概ね現在のところ今、野議員さん言われました大幅にアップするという考えはない予定であります。これは、たまたま実際に介護保険料の設定、第1被保険者の関係は療養型病床群によって相当差が出るという考えがありますが、今のところ国の指導、道の指導によりまして、私どもの療養型病床群に入床関係もある程度押さえられるという関係もありますので、今冒頭に申し上げました沼田町は最終的には町として、議会にご提案するのは現在、町づくり懇談会で申し上げましたように、3,300円から3,500円の間ぐらいと考えております。

それから、低所得者の関係であります。これにつきましては、実際に第1被保険者の関係でいきますと、国の指導が、今のところ第1段階から、第5段階となっております。これにつきましては、第3段階が普通の基準という事で、1.0という事で、それによって低所得者に対しまして、国の基準では0.75とか、0.5という形になっておりますが、これにつきましてはあくまでも、国の基準でありまして、町は現在のところ国の基準並に行きたいと考えておりますが、最終的には私ども考えている65歳以上、第1号被保険者の受ける総介護サービスとか、総人数によって若干差が出ようかと思っておりますが、現在のところ、国の基準で行きたいと考えておりますので宜しくお伺いしたいと思っております。

○議長（吉田好宏議長）よろしいですか。それでは次に2番、野議員。国民健康保健問題3について質問して下さい。

○2番（野 道夫議員）国民健康保健の問題について、町として国保税の改正時は、低・中

所得者の軽減の拡大を図って頂きたいという事でございますが、一般会計からの繰り出し金の増額も更に検討すべきと考えておりますが、また、納税者が納めやすい便宜を図るために、現状の8回納入を10回まで増やせないか、早急に実施すべきと思いますが町長の考えを伺い致したいのですけれども、よろしくお願い致します。

○議長（吉田好宏議長） 住民生活課長。

○住民生活課長（佐藤幸一課長） ただいま野議員さんのご質問の中で、一般会計からの繰り出しの増額の件についてお答えさせて頂きたいと思っております。国保税の最高限度額を下げまして、一般会計から国保会計へ繰り入れを行うという事になりますと、国保会計の中の国から来ます財政調整交付金これが減額されるおそれがあります。現在、本年度で5千万円ほどされておりますが、これらの事もありますので沼田町国保運営協議会の中で色々と協議させて頂きたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

なお、納入歳出等につきましては、財政課長の方からお答え頂きたいと思っております。

○議長（吉田好宏議長） はい、財政課長。

○財政課長（中村幸雄課長） それでは、後段の方の現状8回の納入を10回までに延伸する事が、早急に実施すべきというご意見でございますけれども、実はこの国民健康保健の納期につきましては、平成5年の段階で、丁度限度額の改正を行ったのですが、その段階でそれまで4回の納期であったのを、8回までに条例を改正させていただいております。そういう関係で、保健税の課税の段階では、色々と平等割りとか均等割り、資産割り、所得割りとその4つ位の割合でそれらの中で、課税をする制度になっておまして、平均割りとか均等割りそれらについては4月1日付けでそれぞれ、その状況が分かる訳ですが、資産割り、これは固定資産税の関係でございますが、これらは5月の段階にならなければ確定しないわけです。それから所得割り等につきましても、住民税の付加のための前年中の所得が確定するのが6月でありまして、それが確定した段階で、それぞれ固定資産税の額が決定されるというシステムになっているものですから、なんぼ早く致しましても、7月が最初の納期の月になろうかと思っております。そんな事の計算を課程をしていきながら、最終的にはそれらの決定、試算した関係は議会に提出して了承を得るというシステムをしていくものですから、その一番近い議会が6月でございますので、どうしても6月の定例会で改正をかけまして、保険税決定とそんなスタイルになってございます。また、今のだいたい8回という沼田町はとっておりますが、管内の状況もちょっと調べさせて頂きましたが、今8回の制度を採っているのは、北空知では町では沼田だけで、他はみんな4回とか、6

回の納期でやっております。ただ、深川市が、8回に今なっております。そんな状況でございますので、町としましても、十二分に納税者の皆さんの～～といいたいでしょうか、便宜は十二分に図っていると、そういう事から、従来から行っております7月から2月までの8回というのが、最良の最大限の納期という事で今後もこれで続けさせて頂きたい、このように考えてございます。

○議長（吉田好宏議長）はい、2番。

○2番（野 道夫議員）一再一 民生課長と今、中村課長からもご説明を受けた訳ですけども、北海道として町村以外で市も入れまして、10回というような所の市町村があれば、分かればお知らせ頂きたいと思えます。

○議長（吉田好宏議長）はい、財政課長。

○財政課長（中村幸雄課長）今手持ちの資料では、空知の関係は調べたんですが、全道全部というのは調べてございませんので、後ほどその資料については調査させて頂きまして、資料を提出させて頂きませんが、ちなみに空知27市町村の関係でですね、調べましたら最高がやはり8回です。それは、市で8回というのが8市ございます。それ以外の市でも、5回、6回というのが2市ございました。町村の中でも、8回をしてるのが4町村です。後は、6回、5回、7回、これらが12町村です。そんな関係で空知全体をみましても、最高は8回というのが現状でございます。後ほど全道的なものの資料については、また調べさせて頂きます。

○2番（野 道夫議員）はい、分かりました。

○議長（吉田好宏議長）次に、パークゴルフ場問題4について、質問して下さい。

○2番（野 道夫議員）2番。パークゴルフ場問題についてお伺いを致します。昨年総務の所管事務調査の中で、秋口でございましたが歌登、幌加内、新十津川、雨竜町、秩父別、深川というような事で、調査をさせて頂きました。この北海道で、今パークゴルフ公認コースの新設について、かなり市町村で力を入れて整備をされております。私ども、パークゴルフ公認コースの新設について、子供から高齢者まで手軽に楽しめるコースの新設について伺いたいということで、所管事務で一応報告を致しております。そういう中で、町長も町づくり懇談会の時に、町の人からもそのようなお話されたと、私記憶しておりますが、やはり沼田町で今の河川敷地で、結構朝、今年の夏は特に暑かったものですから、川原の涼しいところという事で、だいたい朝5時半くらいになりますと、だいたい20人から30人の人方が楽しんでいる訳でございまして、まあこれらも、健康管理という事でやは

り沼田町で色々な面で、金をかけないように体を鍛えて行きたいというのが目的かなという感じも致しておりますけれども、やはり沼田町のパークゴルフ場、かなり整備はされております。パークゴルフ場というのは、整備されたところがパークゴルフ場かと言われてますと、私ども体育協会の関係と、体協の中で色々と全道のお話も聞いた事があるのですが、パークというのは公園でございますから、公園の空き地に若干のものを作って、そして楽しむゴルフという事でございます。ですけれども、そういう時代はもう終わったと、やはり公認コースでなければならないという事で、かなり北海道いろんな所で、公認コースを新設をいたしております。そんな事で、沼田町も河川敷地には18ホール、そしてまた、体育館の裏にも18ホール、北竜のひばりが丘にも18ホールですか、パークにもございます。そんな事で、箇所については空知管内でもそう負けてはおりませんけれども、これは人を呼んで接待をしてそこでパークゴルフ大会をするというようなコースでは無い訳でございまして、私ども町長も一生懸命に西田町長も心配されまして、私と一緒に石狩川開発建設部の方に行って、高規格道路の完了後にあそこの所に、かなり大きなパークゴルフ場を設置したいというお話もされた事も私聞いております。最近になりまして、石狩川開発建設部としては、やはりあそこでのパークゴルフ場の新設については難しいだろうという事を、言っております。そういう事から、あそこに力を入れて、少々今1・2年間金をかけてもですね、後、石建そのものが真剣になってくれなかったら、あれは河川敷地ですから専用を受けますから、いつ何時撤去命令かかるか分かりません。そんな事もありまして、是非ひとつ人の土地をこんな事申し上げたら私悪いのですが、沼田町駅の裏側に、北炭の土地、三井のあれ、あそこにはですね、面積的にいきますと7町5反の面積がある訳でございまして、あその面積をもし行政的にまた、金の掛かることを私申し上げるのですけれども、もし、全てを買収していただければ、おそらく新十津川、深川とか、秩父別とかに負けなだけの私はコースが出来るのではないかなという事と、新十津川そして幌加内町、秩父別町に色々な話も聞きますと、かなり商工振興にも繋がっている。幌加内町なんていうのは、とにかく昼時期になりますと、パークゴルフの人方で一杯だと、それで幌加内町の人方が食事に行っても、中々食べられないというような状況だというような事もお聞きしております。出来たらひとつ沼田町の商工振興にも繋がるだろうという事と、沼田町の健康管理にも繋がるという事で是非ひとつ町長、今すぐと言ったら中々大変かもしれませんが、2・3年くらいの中で、今すぐと言った方が良いのかなと思いますけれども、ひとつこの辺をなんとか新設するように要望するのですが、この辺について町長

のご意見を伺いたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）地域振興課長。

○地域振興課長（藤間武課長）今、野議員のご質問に私のほうからお答えを致しますけども、最終的には町長の判断でどういう形に今後整備して行くかという事が決定されると思います。まず、野議員さんがおっしゃってありました町づくり懇談会の中でも、そういう要望が何件か出てまいりました。今現在、河川敷地にある、これが石建さんの方で支援をして頂きまして、9ホール増設をしていただきまして、それプラス協会の方で9ホールという事で今18ホールになっているかと思っておりますけども、今、その上流といいますか高規格道路の雨竜川大橋の関連もございまして、これらいつ頃の雨竜川の架橋が終わるのか、河川敷地の今、将来に向けて増設する部分について、今ストップかかっているのは、高規格道路の雨竜川大橋の工事用の用地として石建とそれから、札建の北空知道路事業所の方で、協定がありまして、河川の架橋が終わるまでは整備ができないという条件になっているようでございます。過日、町長も心配されておりました、石建の方に私の方も出向きまして、石建がそれぞれ当時は、9ホール増設して頂いた時には、事業の中でも支援をして戴けるというようなお話もございました。その中で、町としてもお金がかかるわけですから、そういう事業の中で支援をして頂ければという事で、話を進めてきているところでございます。いずれに致しましても、石建の方と協議を整えて、進めているところでございまして、これが旨くいかなくなった場合は理事者と十分つめまして、次の候補地のほうに検討していきたいというふうに考えております。よろしく願いいたします。

○議長（吉田好宏議長）2番。

○2番（野 道夫議員）一 再 一 振興課長のお話分かりました。石建の関係については、やはり高規格道路の下という事は、非常に国そのものの考え方としては、難しいだろうと、もし何かあった場合に誰が保障するのかという問題なんです。ですから、道路の下とか、そういった高速道路の下というのは、そういうような遊び場はなるべく国としては、したくないようなお話をしておりました。振興課長さんのお話分かりました。そこで、これは政策的な問題と致しまして町長にお伺いしたいのですけれど、町長3月、私12月と言いましたけども、3月所管事務の報告書を提出しておりますが、丁度西田町長さんその時にはおりませんでしたので、おそらくこの報告書は見えていないかというふうに考えておりますが、後ほど、所管事務の報告書も見ていただき、是非ひとつ前向きでお考えを頂きたいと思っておりますし、町長のご意見も伺いたいなと思っております。

○議長（吉田好宏議長）町長。

○町長（西田篤正町長）今、地域振興課長の方から、答弁したとおりでございますけれども、いずれに致しましても町づくり懇談会で住民の皆さんからあれだけ多くの要望があるという事は重く受けとめております。お話ありましたように、石狩川開発建設部或は、札幌開発建設部、この辺との協議が整いましたら、早い時期に住民の皆さんの要望に応えるような方向で内部で検討させて頂きたいと思っております。ただ、その場合用地については、色々な絡みもありまして、ご要望どおりその今の駅の裏側という事には中々難しい面も出てくるかもしれませんが、その辺につきましてもまた、議会と十分事前に相談をさせていただきます。よろしくお願い致します。

○議長（吉田好宏議長）よろしいですか、はい。それではですね、暫時休憩致したいと思います。

15時46分 休憩

16時02分 再開

（岩寺監査委員、収入役不在）

○議長（吉田好宏議長）再開を致します。7番橋場議員、農業問題1のイ、ロについて、質問して下さい。

○7番（橋場 守議員）議長、議事進行についていいですか。

○議長（吉田好宏議長）はい。

○7番（橋場 守議員）ちょっと話を聞くところによりますと、教育長のお父さんが具合悪いという話を聞いていますので、先に教育問題をやってすぐ退席していただいたらどうでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）それでは、只今のご意見に対しまして、そのように致したいと思います。

（教育長への質問へ変更）

○議長（吉田好宏議長）それでは、7番、橋場議員。「日の丸」「君が代」問題1について質問して下さい。

○7番（橋場 守議員）「君が代」と「日の丸」が、国旗国歌法で、どちらが先だったか

忘れましたが、法律が出来ました。国会答弁の中では政府の方では、これが決まったからと言って現場には強制はしませんという答弁をしているのです。ところが答弁していたにも係わらず、国会が終わったらすぐもう強制が始まっているという状況になっています。それで、教育長は、まあ町長もそうなんですけれども、私は昔何々をやっていたので、しょっちゅうこの歌を聴かされていたので好きですという答弁があるのですけれども、これは好き嫌いの問題ではないのです。この歌が、どんな経過で作られてきたかと言う事で、国民の中には反対の意思の人もいれば、賛成の人もいるのだから、そういう中では国歌、国旗という事を決めるべきではなかったのです。もっともっと議論を続けるべきだったんです。私は是非、沼田町の教育委員会としてはこれは現場に強制しないというような、態度をとってほしいなと思うのです。というのは、今叫ばれている地方分権という言葉いろいろ出てきますけれども、依然としてここの教育委員会は沼田町の教育委員会なんです。上から任命された訳ではないんです。ですからやはり、ここの町民に責任を持つと、教育の面で責任を持つという委員会ですから、やはりここで上がどうであろうと、沼田町はこうやるという立場をしっかりとすべきではないかと思うのです。それで、学校に押し付けないのは世界の常識とこういうふうに、うちらでビラ作ったんですけれども、アメリカでは50年以上も前に最高裁判所が、教育委員会が国旗への敬礼を子供に強制することは、信教の自由を保障した合衆国憲法に違反するという判決を出しているのです。それから、ドイツではどうなっているかという、日本の教科書問題を考える市民の会が、在日ドイツ大使館に国旗国歌の学校での扱いはと、質問しましたら、学校に委ねられていると、自由だと、幼児での国旗掲揚はまれであるというふうに答えが返ってきました。これは、岩波ブックレット〜〜〜で、世界の国旗と国歌という所に書かれているのです。それから、まず何よりも押し付けてはならないというのは、国旗国歌の歴史があるのですけれども、ドイツでは戦前カギ十字の国旗だったんですが、これは侵略戦争に反省しまして、戦後別な旗に変えているんです。それからイタリアも、やはり同じように国旗を別に制定しています。それから、国歌についてもやはり歌わない部分があるんです。そういうふうに、過去の反省にたって、自分の国民だけではなくて他国民に相当ひどい危害を与えるシンボルだったんです。日の丸を先頭にして侵略戦争が行われた。こういう意味から、本当に過去の過ちを憂いて国旗、国歌にするべきでないという人がある訳ですから、そういう意味で、やはり決まっても、学校現場には押し付けないようにしてほしいと思うのですが如何でしょうか。

○議長（吉田好宏議長）教育長。

○教育長（久本博美教育長）お答えの前に、ご配慮頂きました事にお礼申し上げたいと思います。今、ご質問にお答えさせて頂きますけれども、お答えするのは現場に押し付けないと言え、すぐ事は足りるような気が致しますけれども、やはり私の立場としては、それを分かりましたと言う訳にはいかない立場もございますので、ご理解を賜りたいと思いますけれども、私個人的には、法制化されましたものですから、この精神は尊重すべきだという立場を貫かなければならないだろうと思っております。ただ、おっしゃるとおり教育現場ではやはり相当な混乱を招くだろうというふうには考えております。しかしながら、今、国旗なり国歌が子供達に理解され、さらには尊重される。そして、そういう意味ではこういう法制化されました事によって、子供達に国旗並びに国歌が何故あるのだという中身につかましての理解を得る機会にはなつたろうと考えてございます。冒頭申し上げましたとおり、教育現場全部が混乱している訳ではありませんで、ご承知のとおり国旗につきましても既に、100%に近いものが実施されております。ただ、国歌につきましても残念ながら、必ずしもそういう結果にはみておりません。ただ私、教育現場を預かる者としてはやはり冒頭申し上げました、法の精神は将来に向かってその精神でやって行くべきだというふうに考え方持っておりますけれども、今、即現場にこの事を持ちこんでそうなるかという非常に沼田を考えましても混乱性はあるという考え方をしております。これ、努力はしないつもりはありませんけれども、ただ強制して云々というところまではまだ、私もそこまでは考えておりませんが、今先生方につきましても理解をしてもらう努力をしなければならぬですし、教科書には当然国旗、国歌につきましても音楽の本には、教科書には国歌も載っておりますし、きちっとなっておりますので、そういう意味では理解を得ながら、そう長い時間を私待っている訳にはいきませんが、当分の間、今現段階ではやはり、橋場さんがおっしゃったような事を成らざるを得ないと思っておりますけれども、くどいようですが、最終目標的には学習指導要領等に基づく結果を出すように、私ども指導してまいりたいと思います。ただ、現場の混乱を早急にさせるような指導の仕方は今はしたくありませんと言う事はお答え申し上げておきますけれども、結論的にはそういう方向に向かってそうなることを願いながら、少し時間をかけさせて頂きたいというふうに考えてございます。

○議長（吉田好宏議長）はい、7番。

○7番（橋場 守議員）一再一 この法律は、日の丸を国旗とする。君が代を国歌とする。

というだけなんです。後、他の事何も書いていないんです。ですから、そこに学校で歌わなければならないとか、そういう事は全然書いてないのです。だからその点を、しっかり押さえておくと混乱を起こさせないようにしていけるのではないかと思うのです。これは、初め国は政府側の答弁では、君というのはお前達、自分だと言っていたけど、最終的には天皇ですと言っているのです。だからこれは君が代は、国民、主権在民という立場から言うとおかしいのです。国歌を君が、天皇の世の中栄えるためのという歌になると、これは主権在民から反するので、ひとつそこを十分考えてほしいなと思っています。答弁はいいですよ。

(町長の質問に戻る)

(16時10分 教育長、退席)

○議長(吉田好宏議長) それでは7番、農業問題1のイ、ロについて、質問して下さい。

(16時11分 石脇局長退席)

○7番(橋場 守議員) 今年は、長寿平均年齢が、男性だけは前年度を下回ったんです。原因は何かと言ったら、このバブルはじけた後の中小企業の人達の自殺、沼田は幸いにして農家の人達の自殺はないのですが、妹背牛なんかでは農家の人の自殺があるのだそうです。こういうのが男の人の平均寿命を前年度より下げさせたと、こういう社会情勢があるようであります。農業問題についてですね、ここで市場原理というのは自由競争ではなくて、食うか食われるかなんです。強い者が勝つ、こういう原理ですからそこへ1年に1度しか採れない、しかも天候に左右される農産物を丸投げしちゃったらこれは農家の人達がやっていけないのは、本当は目に見えていたんです。それはそういうふうになってしまった。私はやはり、何よりも農業というのは人の命を作って行く産業であるという事なんです。自動車無くても死ぬ事はないけれども、そうするとこの日本の農家の人たちの生産というものを国がやはりきちっと再生産、それから生活を保証するということが私は、独立国であれば基本だと思うのです。そういう立場からやはり要求して行かなければならないのではないかなと思います。ここで、今ここには国に対して米や主要農産物の価格補償を要求せよ言いましたけども、これはすぐできる事ではありませんから、私達は道に対して、価格で米1俵1,000円。それから流通経費で1俵1,000円を道として補填せよという事を要求しているんです。私は、町でやるとしても、今回やらなきゃならないと思うのです。そうするとそれにはやはり、本当に農家の人達がやっていけるような補償は出来ませんね、

町だけでは、ですから町もやるけれども国・道に対して、農業政策そのものをきちっと転換していくような要求をするべきだと思うのですが、町長は如何考えておられますか。

それから、さっき後継者の問題で、町長が児童生徒に農業体験をさせて、農業は素晴らしいと言って後継できるような状況が教育的にも必要だというような事を言われてましたけど、私は子供として農家に育って、児童生徒の時、農業手伝っていると思うのです、見てると思うのです。その人達が、農業を継がないんです。そうすると、教育現場でやっても、その時はああ楽しいなと思うかもしれないけども、きちっと物を見れるような状況になったら、今までやってる農家の人がやっていけない訳ですから。それじゃ、そこを見れるようになったらやはり、農業を継がないと思うのです。私は、そういう点ではまあ、農村の議員さんの中に、農村出身の議員さんの中にやはり後継者のいない人もいるのではないかと思うのです。未定の人もいると思うのです。僕はいま後継者いる人は、本当に素晴らしいなと、よくその子供を教育したなと思いますけれども、それはやはり本当に特殊な人達で、全体としてはやはりとてもじゃないけど、農業は継がせれないという事なんです。そこをやはり継げるように、継ぐぞと喜んで都会からUターンしてくるような農業政策要求しなかったら、私は後継者というのは、いくら町で考えと言っても無理だと思うのです。それで、こういう危機な状況にあるのに係わらず農家の人達の団結が無いんです。しかし今のような状況になったら、やはり団結しなきゃならない。たとえば米価闘争あれば、その事で一応農家の人がその事で団結できたんです。今はそんなふうになっていないんです。そこでやはり大事な事は、行政なりそれから農協なりですね、そういう団体がやはり一緒になって、この危機突破大会みたいなことを計画するというのは大事でないかと思うのです。私は、よそがやらないからという事でなくて、沼田でそれを実行したら、電波するのではないかなと思っているのですが、そういう事を町長は農協やなんかに働きかけて、やるつもりはないでしょうか。

○議長（吉田好宏議長） 農業振興課長。

○農業振興課長（矢野潔課長） 先程もあの、別の方からご質問ございまして、いわゆる稲作の経営安定化という事で、只今も米価格の上乗せ、具体的に1,000円、1,000円という上乗せ、そういった方策、そういったものを道辺りに要求していくべきじゃないか。このようにご質問があった訳でありますけれども、確かに今年の仮渡し金が12,000円でありまして、これも先程と同じ事を申した訳でありますけれども、これではとって10町作っても、20町作っても採算といたしますか、生活さえも家族共々出来得ないと、単純な試算の

中でも、その事がいえる訳であります。まあしかし、ご存知のように農業農村基本法の中で、一項がございますけれども、農産物の価格そういった～～でありますけれども、これが農業経営に著しい影響を与える時には、いわゆる価格への支援を行って行くという、こんな事が法的にはそういった明示がございますけれども、これがどの程度なのか今回の据え置き12,000円で国はそういった施策を発動するのか、非常に率直に申しまして疑問があるところでございますけれども、いずれも先程町長からもお話がございましたけれども、雨竜川中央地区の償還、こういったものも道に対して今後、地元負担の軽減、そういったものを要求していくべきだと、こんなことも一考～～～～されておりましたけれども、いずれもそういった直接的な補填、こういったことは明解で望ましい訳でありますけれども、これは非常に財源的にそういった形が許されるのかどうか、まあ可能な限りそういった方向で行くべきかなと思いますけれども、ひとつの手としては、間接的な要求といえますか、前段の雨竜川中央地区の地元負担の軽減、あるいは農地緊急保全対策これらにつきましても、もっともっと見なおし、見直しには相当の予算も伴うと思いますけれども、そういった事も十分見直していただく。或は、中山間、これも金額的に明示はありますけれども、こういったことが部分的な農地に対する補償であれば、直接保証であれば、残された部分7割ないし6割が残された部分、そういった部分に同じ水稻経営をやって安定が計られるのか、そういう大きな疑問もありますから、そういった面で十分中山間への所得補償の拡充だとか、そういった面でもっと系統をあげて、要求していくべきなのかなそんなふうに思います。また、これにつきましても、系統を通じて危機突破大会なるもの、こういった統一的な行動をこういう事でお話もございましたけれども、当然それに値する状況かなと、そういった認識をもってございますけれども、これが系統或は、地元農業団体がどう今年の農業結果に対して、或は置かれる還付に対してどういった行動を考えておられるのか、これも改めて細部に渡りまして、系統と相談をしていきたいとこんなふうに考えておりますので宜しくご理解を頂きたいと思えます。

○議長（吉田好宏議長）はい、7番。

○7番（橋場 守議員）先程から、共補償の問題で、言っていたけれども、3年間の平均より下がった分の8割ですから、絶対にそれじゃあがらないんですよ。必ず下がっているんです。だからそれでは抜本対策にならない。おまけにその共補償の補償される部分に、農家が前もって金出している訳ですから、それじゃもう本当に8割ではなくて、もっと低い部分しかないんですよ。自分でもう先に持ち出していますから、そういう事では、共補償

では農業やっていけないんじゃないかなと思っています。それで、お聞きしたいんですけども、100%を超えた分について来年からその分は自主流通米としては出荷させないで、えさ米にするというのは国の方針ですよ、1表800円から1,200円だと、そんな状況にされたら、農家の人達生産意欲なんて全くなくなってしまうと思うのです。それでいて、ちゃんとミニマムアクセス米は入れている訳ですよ。こんな逆さまなやり方ないですね。国に対してそれらの外国から入った米は、国際貢献に出す事にして、やはり日本の国民には日本の米を食べてもらう、それから備蓄するという事を、そういう方針がどうしても必要だと思ってしまうのですけれども、それは自主流通米の価格を下げないためとして100%以上の分はえさ米にするんだと言うのです。ところが、もし1俵600円とか1,200円でしか買ってもらえないとしたら、そこへ商社の人それがうちでは5,000円で買うと言ったら、農家の人は出しますよね。そうすると総体的に米価格が下がるのは当たり前なんです。だからそれは国の言っているのは私にごまかしだと思ってしまうのです。やはり、こんなやり方をやらせないようにしなければならないと思っています。

それから転作の問題ですけど、生産調整の問題ですけど、ちょっと教えて頂きたいのは、今年は空知は108だとかと言っていますよね。ところが実際に採って見たら、カメムシの被害があって大変な状況であると、この自主流通米に出たあれでもって調整されて、減反はまた変わってくるのかどうか、その当りちょっと教えて頂きたい。

○議長（吉田好宏議長）農業振興課長。

○農業振興課長（矢野潔課長）後段の転作の関係でありますけれども、例えば米を生産されて、振るいにかけて、網下にもものが落ちた。これはひとつの基準、精選の方法でありますから、これが有効に販売された、一定の価格で販売されたもの1等米で販売されたもの、これがそのことによって、少なかったためにいわゆる手取りもその分不足になる訳でありますけれども、これが決してその作柄としてどうなのかという事でありますけれども、これは決して不作ではございません。凶作ではございません。これは一定の基準以上のものが採れていれば、おおざっぱな言い方しますと網目の下に落ちたものであっても、一定のそれは収穫量でありますから、そういった解釈、捕らえ方をして頂ければと思います。

したがって、当然自主流通米、これは1等から始まっている訳でありますけれども、いわゆる従来どおり系統を通じて集荷をしてそのものが保管、在庫、倉庫の中に保管されている。これが、全国ベースでどうなっていくか、これが本年10月を基準にして、全国のその~~~~保管した中では、次年、2000年の10月では70万トン上乗せになって

いくだろうと、それだけ過剰在庫になるという見方をされているようでございます。

それから、先に言われました、補填が1,200円、800円過剰米の処理でありますけども、ちょっと私の捕らえ方が間違っていると訂正させていただきますけども、いずれも在庫の米の消費、流通ですね、そういうものに乗った物がいくらで、在庫がどうなっていくかという、そういう保管調整といいますかその辺のレベルの話でありますから、当然過剰米といいますか、たまたまこう年次に在庫として新米との絡みから、在庫量が当然、古米あるいは古古米となって残る訳でありますから、その辺の調整をですね飼料米に向けられると、従ってその生産者自体が、その当初から配分して一般の自主流通米があなたは、いくらいくらで何俵の出荷で単価はいくらで、それからプラス加工ではありませんけども、飼料米としては1俵800円、1,200円というのはそういう分の割り当て出荷ですか、そういう事がなされる物ではない、いわゆる集荷された農地の倉庫の一掃といいますか、その辺の調整でなかろうかというふうに解釈しておりますので、ちょっとこれが違えば、後ほど訂正させていただきますけども、そのような受け止め方をしている訳でございます。

○議長（吉田好宏議長） いいですか。それでは、7番、介護保険問題2のイ、ロ、ハについて質問して下さい。

○7番（橋場 守議員） 認定作業って、85項目だけでやったり、面接もあるんですけども、第2次審査もあるのですが、お年よりの体の状況というのは時間によっても、変わっていくんです。ですから、丁度審査をしている時に調子がよければ正確な判定が下せない事になるんです。例えば痴呆の人が、よその人が来れば急にしっかりしちゃって、なんでこれが痴呆なんだと家族の人が嘘を言っているのではないかと思うような状態になったり、それから例えば、設問というのは出来るか、出来ないかなんですよ。例えば、1日にトイレ行けるかという事で聞かれたら、やはり格好悪いから1回位行けますと言ったら、行けると、行けるか行けないかしかないの、そういう非常に認定の作業の中で、公平なその人に日常生活に合った判定が出にくいという事を聞いています。そういう意味で、正確な判定をするために、第三者による、中空知の奈井江の方でやっているような、ああいう機関を作る気はあるかどうかを、お聞かせ頂きたい。

それから、ロですけど1号被保険者の低収入に対する保険料、5段階と貴方言いましたけども、計算をすると基準が3なんです。それからその家で、みんなが地方税を納めていなければ1と2の段階。それでやるけれども、0.5になる人、それから0.75になる人は、収入に対する保険料の率を言うと、高い方で払っている人よりも、低い方に減額された人

の方の収入に対する比率は計算すると高いのだそうです。そういう意味で私は、0.5ですと言われる人の方が出すの大変なんです。ですから、ここにはやはり国の決めた%ではなくて、それに対してそれをやはり出せない人に町が補填する。本当は国に補填させるべきなんですけどね、今まで老人やこういう介護やなんかに出している国は大体5割出しているのですか、それを2割5部に減らしているんですよ、実際には今まで国がかけていた金よりも、3,800億円位予算安くなるんです。ださんでも良くなったんです。こんなばかげた話はないので、これはやはり改善させる必要があると思うのです。だけどそれが国にやらせるまでは時間がかかるので、当面は道にも要求するけれども町として減額をする必要があるのではないか、実際に生活保護よりも基準以下で暮らしている人いるのです。町職員の人に言わせたら、橋場さんそれだったら生活保護申請してやればいいでしょうというけれども、それが中々出来ないのです。もう親戚まで兄弟まで扶養義務がありますから、それでその人達のところへ全部書類が行きます、とてもじゃないけど言われてなんぼか援助しますなんて言わされてしまうんですね、そしたらその人はとても生活保護は申請できない。これが実情なんです。ですから、そういう人に対して生活保護以下に本当に暮らしている人達いますから、こういう人に対してやはり手を差し伸べていただきたいというふうに考えていますがどうでしょうか。

それから、条件整備で2次試験でもってケアマネージャーが5人、それで全部で9人になったそうですね。ですけども、その他のヘルパーさんやなんかの関係の条件は整備されているのかどうかお聞かせ頂きたい。

○議長(吉田好宏議長)健康福祉課長。

○健康福祉課長(松田剛課長)それではまず、イからお答えしたいと思っております。橋場議員さんから言われました、85項目の関係という事ではありますが、現在のところ私どもで橋場議員さん言われましたように介護支援専門員ということで2次試験でということで現在9名ほど8名ないし9名という事で、ちょっとこれは固有名詞でというか、氏名が公表されませんので、たまたま今私ども健康福祉課では2名と、それから厚生病院で3名と、それから旭寿園の寮母さんが1名と、デイサービスの臨時看護婦さんが1名と、それから一般で1名と、はっきりした氏名は分かりませんが私ども町の消防職員の多分奥さんだろうという、あれしております。実際に認定審査の関係で、85項目云々とありましたけれども、最終的にまあ私ども考えている関係で行きますと、実際にまあ高齢者対策室、並びに在宅介護支援センターということでそれぞれ、旭寿園なりそれからデイサー

ビスということで、それぞれ85項目に該当するような形で色々、今の現在段階での諮問
というか、そのような形をやっておりますのでたまたま最終的には10月から申請という
ことがありますので、それぞれ該当になるそれぞれの方の、状況を十分介護専門員それか
ら私ども、訪問調査員という形で保健婦をここ等辺を、デイサービスそれからまた、訪問
ヘルパーをお互いに協力し合ってその人がどういう状態にあるのかという事を、十分調査
した上で、申請のお手伝いをしたいと最終的には1市5町での審査会を受ける事になりま
すが、その前の申請に対するいろいろなもんもんは、そういう形で十分個々の人の状況を
調査して出したいと考えてますので、十分厳正かつ公平な審査を受けれるだろうと、万一
その時に審査を受けてその後、不服であればという事になりますが、これにつきましては
北海道の介護保険審査会という所がありますので、こういう事で協力していきたいと考
えております。

それから、口の関係ですが、これはあくまでも先程、野議員さんからもご質問ありまし
たように、1から第5の段階までありますが、これは先程野議員さんにもお答えしまし
たように、一応3が基準ですと、問題は橋場議員さん言われました、第1段階、第2段階の
人をどうするか、これをどう手立てするかということで、実際に介護保険法で142条で
ですね、この関係で市町村は条例を定めるところにより、特別な理由があるものに対して、
これは町長の裁量で保険料減免、又は徴収猶予できる云々ということで最終的には私ども
沼田町の介護保険の条例も設定したいと考えていますので、そこらへんを十分町民税とか
保険料の納入者に対しても十分調査をしながら、そういう方向でも十分検討されると思
いますので、そういう事で考えていきたい。

それからまた、これからの来年3月までの条件整備という事ですが、先般町づくり懇談
会で町長が申しあげましたように、町の方向性を大体10月位を目処に町民に周知したい
考えなので、そこらへんを担当課として施設いろんな関係機関、厚生病院ですとかいろん
な関係機関と連携をとりながら町民が出来るだけ満足をいくような形で、介護保険の保険
施行に向けて進めて行きたいと考えておりますので宜しくお願ひしたいと思っております。

○議長（吉田好宏議長）はい、7番。

○7番（橋場 守議員）一再一 課長ね、さっき野議員の質問に対して答えていたけど、
国の方から色々と指導を受けてということね、課長や作業やる人にとっては1番つらい事
なんだけれども、サービスを上げれば保険料が高くなるという全く矛盾した、私達はこれ

をとって保険あって介護無しと言っているんです。介護を良くすると、その人にあつたものにすると言ったら、保険料高くなるんです。こういう、とんでもない制度なんです。だからこの点やはり私は住民にこうやって言っているんですけども、役場の職員の人達は住民の前ではそれを隠しているんです。やはり、この介護保険というのは本当に矛盾一杯なんだという事を、町民の前で言うべきだと思うのです。町こんで聞いたって、そんな事はひとつも言ってませんから、3,500円にするか3,300円にするか、サービスを増やせば上がるし、本当に大変なとんでもない話なんです。

それでひとつやりますと、言っていましたので是非やってもらいたいな。補填ですね。これを是非ともやって頂きたい事をお願い致しまして次に移っていいですか。

○議長（吉田好宏議長）はい。消費税問題3のイについて。

○7番（橋場 守議員）最近ここに書いてあるとおり自民・自由・公明3党の党首がそれぞれ消費税増税を唱えているんですよ。しかも、高齢化社会に向けて福祉を良くするために必要なんだという、国民の一番の弱みを口実にしてやろうとしているのです。これは飛んでもない話でありまして、ここに書いたように、公共事業費50兆円、福祉関係20兆円という予算の使い方を、税金の使い方をしている国は日本以外にないということで、ここに他の方でどうなっているのかと国ではどうなっているのかという事を書きました。無駄な公共事業というのは沢山あるんです。私は、石狩新港に港を小さな漁港を作る時に作工大工をやっていたんですが、その時に、みんな言っているのは、また釣堀、大きいのができるという話なんです。石狩新港にほとんど船入ってこないですね、いるのはびっちり釣の人達が港に向けてつり竿下げているんですよ。それから、実際にはそんな船が着かないのに、大きな船が着くようにするために埠頭を掘り下げて工事するとか、本当に無駄な事を沢山やっているんですよ。こういうのを、きちっとさせないで、高齢化社会の維持するためにという事でやったら、なんぼ消費税高くしたって駄目なんです。そういう事で、これはやはり、それは間違いだよという事を町長ひとつ町民の皆さんの前で、宣伝してほしい、宣伝というか正確に言ってほしいと思うんです。そういうふうと考えられるかどうかちょっとお聞かせ頂きたいんです。それで、ここに資料を付けました。それでね、これ消費税は国とそれから地方に入っていますから、ここにきているのは国に入ったやつだけなんですよ、それでここに、逆立ちという事を私言いましたけども、中小企業対策費って、これ農業対策費をかければ良かったんですけど、書きませんで申し訳ないんですが、この資料は私、介護保険のことでお話ししてほしいって住民の人から言われまして、そこへ持

っていく資料として作ったものですから、皆さん方にはこの346だけで良いのに、3.46倍と、非常に馬鹿にしたような資料を作ってしまったけども、こういう事になっています。この、中小企業対策費というのは倍率が0.5になっているんですよ。それをちょっと調べてみましたら、去年は1,858億円が1年間の中小企業対策費なんですよ。ところが、銀行支援のもとで60兆円を国が出すという事になりまして、何とかもらってくれということで、それじゃあと行って銀行から第1回分として、15の銀行が申請したんだそうです。総金額は5兆7,000億円で、ひとつの銀行に平均3,800億円行っているというんです。日本の国の中小企業というのは、国の産業を支えている主力なんです。そこに1年間のやつが、ひとつの銀行に税金を継ぎこんだやつの半分にも満たないんです。だから、こういう無駄な事をきちっと直せば、消費税は絶対上げなくても福祉の問題でもなんでもやれると私は思っているんですが、町長はどのように考えられているか、ひとつお聞かせ頂きたい。

○議長（吉田好宏議長）はい、町長。

○町長（西田篤正町長）いろいろ考え方の違いはあろうかと思いますが、今の私ども地方自治体の置かれている状況、或は、国民の皆さん方が考えている範囲では、おそらく消費税の引き上げというのは、政府はまず出来ないだろうと私は感じております。やはり、非常に今情報社会になりますと、橋場議員さん言われるように色んな情報を私ども伝わってまいりますので、その事をやはり住民の皆さんも、テレビ或はラジオ或は新聞をご覧になって、早い内にその情報を知る事ができる。そういう事が、そういう結果になっているのだと思いますが、私やはり消費税上げる上げないという事を、町民の皆さんに町の事業を通じまして、町がこういう事業をやるためにこういうような国の色んな財源が充てられていますと、色んな事を住民のみなさんに早くお知らせする事によって、住民の皆さんが自分達の納めている税金がどう使われているかということが分かる。そういう事をやりながら、少しずつ国に対する大きな物に対しても関心を持っていただく事によって、ひとつの大きな声に繋がっていくのではないかというふうに思いますので、申し上げましたように6月の議会に申し上げましたように、私どもが知り得ている情報或は知らなきゃならない情報を、早い内に住民の皆さんにお伝えをし住民の皆さんの意見を聞いて、私ども行政に活かす。そういうことに努めさせて頂きたいというふうに思っております。

今言われました中小企業対策費の関係、具体的は私どもこういう数字はまだ分かっておりませんが、いろんな資料をまた拝見させて頂きながら、十分そういうものに勉強さ

せて頂きまして、できるだけ私どもとしても町の考え方をしっかり持てるような、そういうような自治体になりたいな、そんなふうに思っております。特に最近、従来ですと補正予算なんかを組みますと、それぞれその系統を通じまして、補正が出る事になったので事業をなんとかやれやれという要望がきたんですけれども、私どもは今職員に言っておりますのは、無駄な事業はやる必要ないと、その補正というのは国が責任を持ってやれば良いのであって、私どもが無財源を無駄に使う必要はないのだという話を職員にもよくしておりますので、職員もそのような方向で少ない財源をいま言われるような福祉に、まあ必要であれば農業にというような事で、重点的にそういう部分を使ってというような姿勢に、今なりつつあると思っておりますので、そういう面でご理解を頂きたいと思っております。

○町長（西田篤正町長）はい7番。

○7番（橋場 守議員）一再一 町長 こういう事は調べないでも実際に起きてきているものですから、お分かりだと思んですが消費税については今、自民・自由・公明の三党が連合して、今終わった国会ではもうほとんど悪法の製造機関みたいになっちゃったんですよ。それは何故かといったら、選挙をやった時には、自由党も公明党も自民党の政策に反対であると言って、票をもらって当選したんです。ところが、今度は自民党と一緒にやるのには、ここが違ったんだと選挙でやってから一緒になるのなら良いんですが、数合わせみたいになってやっちゃったんですね。今はもう、数は民主主義だと数だという事で、そういう悪法がどんどん作られていったんです。そしてこれからは、これはやる気になったらすぐ出来るんですよ国会では大多数ですから、国民の反対の意思なんかもう分からない内に、議論されない内にもうどんどん決まってしまうから。そういう意味ではやはり、こういう無駄を省けば、消費税上げなくても良いという点でひとつ理解を深めてもらう必要があるのではないかと思うのですけれども、危険だとは思いませんか。町長。今までの、前回の国会の様子を見たら、こういう事はすぐやられてしまうのではないかという、そういう危機感を感じませんか。

○議長（吉田好宏議長）町長。

○町長（西田篤正町長）具体的な答弁はちょっと控えさせて頂きたいと思っておりますけれども、私としては折角こういう景気が上向きの状況になりつつある状況の中で、やはり5%にした時も国民の相当な反発があった。ですからやるとすれば、もう少し国民の理解を求めて、その中でこういうものに使うのであれば消費税を2%上げては仕方ないですよという理解を得た上でやるという事が、やはり原則だと思いますので、私個人の意見もそうですけ

ども、私どもとしてはやはり現状での消費税の引き上げというのは反対をせざるを得ない
だろというふうに思っております。

○議長（吉田好宏議長）はい、それではですね、7番橋場議員。健康福祉センター問題と、
生涯学習センター問題イロハニについて質問して下さい。

○7番（橋場 守議員）健康福祉センターを見ましたら、2階にはたくさんの会議室があ
るんですね、これこういう質問を出したら課長の方から、あれは健康福祉センターでは
なく、2階の方は町全体の物なんだという意味で、それは総務の方の所管だという話であ
りましたけれども、5条と8条に対する要綱をまあいただきました。それで、下の方の値
段だけ決まっているんですけど、2階の方は町職員たちの公的な会議の場所として、施設
としてみているようですね。一般住民には開放しないような方向みたいです。しかし私は、
あれをですね本当に万度に使えるのかなと考えるのですけれども、その十分使えるのでし
ょうかどうかお聞かせいただきたい。

それからダンスやコーラス等の、ここに口で書いたのは、私あそこは2階も健康福祉セ
ンターそのものだと思っていましたから、口をあれしたんですけれども、ダンスやコーラ
ス等サークル活動、健康増進に大いに役立っています。これらに開放する考えはあるかと
言ったんで、開放すると夜のこっちとの出入りを警戒したり色々問題もあるのかもしれ
ませんが、あれだけの会議・会場を夜、町民に開放したらさうとう色んな事に使える
のではないかなと、特にサークルですね、それで開放する考えがあるかどうか、それか
ら高齢者の陶芸室の開催等はどうかという事をお聞きしたいと思います。

それから、生涯学習センターを建てるにあたって、私はそのあれだけの部屋数がある
ので、それをやはり公民館的な利用にすれば、また町民に開放すると生涯学習センターの
設計というのはやはり考え方が大分変わってくるのではないかなと思うわけです。これは、
町民の財産を町民の税金、お金で建てるという立場を堅持して、この5つの事を上げたん
ですけれども、こういう事を相当自治体の方から設計者に注文をつけないと、設計事務所と
いうのは格好の良い金のかかるような設計をする事によって、設計料が入る訳でやりたが
らないのです。ですから是非とも、よそから来た人に見てくれの設計ではなくて、住民が
本当に使いやすい立場の設計をしてもらうように、そういう民主的な設計士のグループが
きっとあると思うのです。そういう人がそういう設計グループがあるかどうか調べて、
もしあれだったらそういう所にも相談してみたら如何かなと思っているんですが如何で
しょうか。

それから、学習センターの方の設計図を見せてもらったんですが、ここには陶芸のやる場所がないんですよ。私は、もともと陶芸館をこっちの近くに作ってほしいという事を要求してきて、今まあゴルフ場の問題か何か言ってあとどうするのかなどと思って、考えますけども、あれはあれで仕方ないんです。だけど、サークルをやっている人達は、あそこまで行けないんです。あそこでは出来ないんです。金を焼いて、こっちでやると電気窯で自分達で焼けますけど、向こうへ行ったら向こうは会社に任せてありますから、自由に使えない。粘土持ちこんで行ってあそこで勝手に作る訳にはいかないんですね。ですから、どうしてもこちらに生涯学習センターなりなんなりに、そういう部屋が必要なんですよ。何故必要かといいますと、ここに書いてあるように、他のサークルだったらそこで自分で持ってきた靴をはいて踊ったり、歌ったりするので、それから本を読んだり、書道であれば墨すって書けばいいんですけれども、陶芸の場合は釉薬だとか、作ったものを干しておかなきゃならないとか、水も使います。そうすると水道と流しがどうしても必要だと、こんな事がありまして、特殊なサークルなんですよ。ですからどうしても、そういうところを確保してやらなきゃ私はならないのではないかと思うのです。そういう所を、確保するように設計を考えるかどうかこの辺りお聞きしたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）健康福祉課長。

○健康福祉課長（松田剛課長）橋場議員さんからご質問受けました、健康福祉センターと生涯学習センターの問題、特に健康福祉センターの関係ですが、これは建物自体は沼田町健康福祉総合センターという事になっていますので、橋場議員さん言われるとおりなんです。たまたま私も正直言って健康福祉課で担当するのは、主に1階。2階の関係につきましては、今まで庁舎の会議室が十分不足していると言う事で、その活用できるような形となっておりますので、たまたま今言われました、正直言いまして2階の関係は、健康福祉センターの目的で使用する場合がありますし、それから役場庁舎の中の会議室としても使用したいという考えもありますので、これは正直言ってサークルですとか何かに使うという関係は、総務課の担当という形で私の方ではそういう具合にお答えをしたいと思っていますので、その関係につきましては総務課の方からお答え頂ければと思います。よろしくお願い致します。

○議長（吉田好宏議長）総務課長いいですか。

○総務課長（平木昭良課長）只今の健康福祉センターの、満遍なく使いこなす見通しという事でございますが、今、松田課長の方からも説明しましたとおり従来の役場の会議室に

つきましては、今回の改修で農業振興課が今まで使っていた1階の会議室を、そのまま会議室がなくなって、そこにきまして、さらに従来のはずだった町民ホール的なものが、役所の入ってもらったら分かると思いますけど、中央にかなり広くとった関係上、会議室とか従来からまして狭くなったという事で、実は健康福祉総合センターには第1、第2、第3という会議室、それと応接室、大会議室があります。第1、第2につきましては、小さな本当に数人の会議室、第3が20名くらいの会議室、あと応接室につきましては、従来の町長室の横にあった応接室が今回、町民サロンということで一般開放ということになりましたので、それに変わるものとしての今回の応接室で、更に大会議室という事になってございます。そこで、この間引越ししてから私どもの方で集中管理しながら部屋の使用状況をみただけでございますけれども、やはり各課の打ち合わせですとか、町内の外部団体との打ち合わせ、更によそからの色々な会議等もございまして、結構日中ですとか晩につきましても使用があります。それで、ご指摘があったその一般の方々の開放という、事前に先にその方々に貸してしまったあとから又、行政でそういう会合がありましても、今更出て行ってくれとかどっか別な事にもなかなか大変な事で、やはり行政上の会議室はやはり一応たまたまその時見たときは使ってなかったと思うんですけども、やはりこれから何時どういうふうな形で使用ができるかという事での万全の策をとるという事で、一応確保したいと思っておりますので、1階2階3階、更に応接室、大会議室等はやはり一応一般開放というか、もし外部機関との絡みがある行政との会議があればそれは問題無いと思っておりますけれども、その辺は特に留意していきたいと思っております。

○議長（吉田好宏議長）はい、よろしいですか。本日の会議時間は、橋場議員の4の質問が終了するまであらかじめ延長しますのでお願いを致します。地域振興課長。

○地域振興課長（藤間武課長）それでは私の方から、生涯学習センターの問題につきましてお答えをさせて頂きたいと思っております。生涯学習センターにつきましては、過日行いました、町づくり懇談会の中で見直し案については、大方の町民の方々に同意を得たというふうに私達は考えてございます。実施設計に当たりましては、町長の行政報告の中にもありますように、各団体等の協議も十分しながら実施設計に入ってまいりたいというふうに考えてございます。また、橋場議員の言われている耐震性、ここに5項目程上がってございますが、耐震性の設計については多分今もう、常識問題ですから、耐震性は十分とられるのかなというふうに考えてございますし、2以降の町民に開かれた建物或は、融通性に富み単純明解にというような5項目までの間につきましても、建設の方で多分実施設計の方

は担当されていくと思います。これを各団体、或は理事者と十分詰めながら、その辺の反映をして設計をしてまいりたいというふうに考えてますので、よろしく願いいたします。サークルの中での、釉薬等の置き場所等、サークル活動をする部屋という形になるんですけども、この辺につきましても議員さんおっしゃっております、陶芸の里の部分との事もございますから、これらについても理事者と十分詰めて検討させて頂きたいと思っております。

○議長（吉田好宏議長）はい、7番。

○7番（橋場 守議員）一再一 こっちの2階の方ですが、やはり夜だとそんなに競合しないと思うんですね、だからそれは追々考えてみてほしいなと思っています。それから、この陶芸についてはこれは是非とも作ってもらわなければ、まずいんじゃないかと思うんです。サークル増えたら、こっちの方でやるとこないと陶芸サークルそのものが活動出来なくなるのです。そういう事をきちっと考えてほしいと思うんですが、町長どうでしょうか。

○議長（吉田好宏議長）はい、町長。

○町長（西田篤正町長）現在の陶芸サークルがどれくらいの活動をしているのか、ちょっと資料が私の方にまだ来ていませんので、その状況分かりませんが、懸念しておりますのは温泉のところにあります陶芸館がですね、ここの状況詳しくは把握しておりませんが、橋場議員さんが心配されるようにもし、委託先の経営的に難しい場面が出てきたときに、これはやはり町が変わって直接運営に携わらなきゃならない場面が出てくる場合があると思うのです。その場合に、それじゃ生涯学習センターにもそういう窯を用意します。向こうにもありますよという事が、果たしてどうなのかなという、その辺のひっかかりあるものですから、沼田開発と十分現況の収支の状況ですとか、それらをもう少し明らかにして頂きまして、将来に渡ってどういう考えでいるかを確認をさせて頂いて、その中で将来的な生涯学習センターの実施設計の段階で、こういうふうに進めたいという、これはまた各委員会の方にも状況を逐次報告をさせて頂きまして、進捗状況を報告させて頂きまして意見を聞きながら実施設計をさせて頂きたいと思っておりますので、その段階でまたご意見を賜りたいと思っております。

○議長（吉田好宏議長）はい、7番。

○7番（橋場 守議員）一再々一 私言っているのは、陶芸館の運営がどうであろうと、サークル活動やる人達はここでないと出来ないって事を言っているのです。向こうへ車で

行って、そろって行って時間とって、また帰って来るという事は出来ない人達がいるから、あそこの問題とは全く切り離して、陶芸サークルの活動する場所を確保するべきだと言う事を言っているのですよ。向こうの事はどうあろうと、それは実際には議会で相当声があったのに係わらず向こうに建てちゃったんですから、これはまあ失政として責任とってもらうけども、それとは関係無しに必要なだと思っているんです。

○議長（吉田好宏議長）はい、町長。

○町長（西田篤正町長）先程申し上げましたように、利用状況等を十分教育委員会の方から資料を頂きまして、いずれに致しましても文化サークルとの話し合いする機会を持ちますので、その中で十分協議をさせていただきます。

○議長（吉田好宏議長）よろしいですか。

○7番（橋場 守議員）はい。

○議長（吉田好宏議長）それでは、お諮りいたします。本日の会議はこれで延会したいと思えます。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）ご異議なしと認めます。よって、本日はこれで延会する事に決しました。本日は、これにて延会致します。なお、お諮りを致します。明日は午後1時30分開会で皆さんよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）それでは、明日は午後1時30分開会、よろしくお願いを致します。ご苦労様でした。

17時04分 延会

会議の経過を記載し、その内容に相違ないことを証するためにここに署名する。

議 長

署名議員

署名議員